

第一條

本訴ハ被上告者等カ上告者ニ對スル義務ハ連帶ノ義務ナリヤ將タ分割スヘキ義務ナリヤ否ヤノ争点ナリ

第一項 原裁判狀ノ第二條ニ於テ之ヲ審判セラレタル趣意ハ上告者被控訴第一號証ノ全文ノ趣意ニ據ルニ被上告者原告被控訴各自ニ割合辨償スヘキモノト解釋セサルヲ得スト即チ被上告者ノ義務ハ分割ノ義務ナリトノ義ナリ斯ク判決セラレタルハ如何ナル文詞ニ付テ解釋セラレタルヤ蓋シ該判文ニ(全文ノ趣意ニ據ルニ云々)トアルヲ見ルモ上告者第一號証中被上告者ハ分割シテ辨償ス可キ義務ナリトノ明記ナキト明白ナリ然リ而シテ之ヲ分割ス可キ者トノ理由モ示サス偏ニ上文ノ如ク判定アリタルハ誤解セラレタルモノトス

第二項 抑保証人ノ本義ハ主タル義務者カ其義務ヲ行ヒ能ハサル

場合ニ於テ主タル義務者ト同一ノ義務ヲ行フヘキモノナリトス又保証人數名アルハ連帶シテ保証ノ義務ヲ行フハ通例ニテ其義務ヲ分割スルハ變例ナリ果シテ然ラハ變例ハ必スシモ之ヲ特ニ明記スヘキ筈ナリ然ルニ其明記ナキハ即チ連帶ノ義務者ナリトス而シテ玆ニ注意スヘキハ上告者第一號証ノ發端ニ利金割合約定証ト題シ次ニ年賦ノ金額及ヒ期日ヲ標記シ本文ノ中段ニ至テ一ケ年タリハ差滞候ハ、受人割合ヲ以テ年々無滞辨償云々トアル是ナリ受人割合トハ即チ發端ノ利金割合ノ文詞ヲ受ケタルモノニテ受人ハ其割合ヲ以テ辨償ストノ言ナリ而シテ其割合トハ該証中標記ノ年賦濟割合ノ通り辨償ストノ趣意ナリ如斯被上告者ハ連帶ノ義務者ナルヲ明確ナルニ前項ニ陳上致ス如キ更ニ識別シ能ハサル判決ヲ與ヘラレタルハ頗ル不當ノ裁判ナリト思考ス

第二條

原裁判狀第三條第二項ニ於テ原告擔當分各自ニ割合初審裁判後ニ係ル法律上ノ利子ヲ添ヘ云々ト判定セラレタリト雖モ前條ニ開陳スル如キ理由ナルニ付法律上ノ利子モ又被上告者ニ於テ連帶シテ上告者ニ辨償ス可キモノナリトス

辨明

上告人ハ上告第一號証ニ受人割合ヲ以テアルハ發端ノ利金割合ノ文詞ヲ受ケタルモノニシテ受人ハ其割合ヲ以テ辨償スルノ意ナリ而シテ其割合トハ該証中標記ノ年賦濟割合ヲ指タルモノナルニ原裁判所ハ該第一號証全文ノ趣意ニ據レハ受人各自ニ割合辨償スヘキモノト解釋セラレシハ不當ナリト申立レモ第一號証ヲ閱スルニ利息金割合約定証トアリテ次ニ金高ト其割合ヲ掲ケ而シテ右ハ云

々前書割合ノ通年々七月十二月兩度ニ廿日限り私方ヨリ相納可申段今般更ニ御約定仕候處相違無之候然ル上ハ一ケ年タリモ差滯候ハ、請人割合ヲ以年々無滯辨償可仕候トアレハ該契約タル負債主ハ該証標記割合ノ通り返濟スヘク一ケ年コチモ滯ルモ請人各自ニ割合辨償スヘシトノ趣意ナリトス何トナレハ前書割合通トアルハ該証標記ノ年賦濟割合ヲ指タルモノナルニ付若シ上告人ノ言ノ如ク請人ニ於テ連帶ノ義務アルモノナラハ一ケ年ニテモ滯ルモ受人ニテ辨償スヘシト記載スヘキ筋ナルニ却テ受人割合ヲ以テ特書スレハ也請人辨償ノ方法ヲ記載セシ所々於テ特ニ請人割合ヲ以テ記載アレハナリ故ニ原裁判所カ第一號証全文ノ趣意ニ據レハ受人各自ニ割合辨償スヘキモノト解釋セシ所以ナレハ不當ノ裁判ニ非ストス

四九五

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノトス

第二百二十號

○判文 明治十三年四月廿日上告
明治十三年八月廿七日申渡

高知縣土佐國香美郡田
村百六十四番地平民有

澤才藏代人

同縣同國土佐郡中新町

住士族

武市正名

同縣同國香美郡田村百

九十四番地平民山岡銀

次代人

同縣同國同郡同村平民

被上告 永野猪之馬

右代言人

東京府神田區淡路町一

丁目一番地寄留愛知縣

平民

山 賴三郎

宛口米不拂ニ付地所引揚ノ上告一件檢事ノ求メニ依リ再審ヲ遂クル
處上告人〔控訴被告〕ニ於テ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトスル主
五九五 點ハ上告第壹號乃至第七號証書及ヒ明治十年第七十九號布告ニ據リ

本件ノ地所ハ盛控小作ニ非スシテ一季小作ニ宛付タルモノナルヲ明白ナレハ明治十年一月四日ノ布告ニ基ツキ減租トナラザル所ノ米額ハ地主上告人〔控訴〕ノ所得ニ歸スヘキモノナリ然ルコ地主上告人〔控訴〕ニ在テ貳分減租ヲ受領スル理由ナク一季小作ニ非レハ地所引揚ク可ラサル旨判決セラレシハ不當ナリト云ニ在リ而シテ被上告人〔控訴原小作〕ニ於テハ第一號乃至第二十三號証書等ヲ引援シテ專ハテ盛控同様ノ地ナルヲ主張シ以テ原裁判ノ當テ得タル旨之ヲ辨護セリ依テ其主點ニ對シテ之カ辨明ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

夫地租ハ其土地ヲ所有スル者ニ賦課スルモノニシテ地租ヲ上納スルハ土地ヲ所有スル者ニ於テ當然負擔ス可キ義務ナルコ因リ仮令

其小作人ヨリ直チニ其地租ヲ上納スルヲアルモ畢竟地主ノ便宜ト村方ノ習慣トニ基ツキ地主ノ上納ス可キ地租即チ地主カ自己ノ負擔スル所ノ公義務ヲ小作人ヲシテ尽サシムルト謂フニ過キサルカ故ニ盛控ト一季小作トニ論ナク減租ノ引米ハ地主ノ受領スヘキモノナリトス但シ地主ニ於テハ其貢租ノ増額ヲ生シタル場合ニ當リ之カ増額ニ應シ其豫定セシ加地子米ノ外ニ在リテ更ニ相當ナル増米ヲ要スルノ權利アルニ由リ小作人モ亦其反對ノ場合タル即チ貢租ノ減額セシキニ際シテ其減額セシ丈ニ準シ其加地子米ノ低減ヲ求メ得ヘキ事由ナリト謂フ可ラサルカ如クナルモ前ニ示セルカ如ク本來減租ノコトニ就テハ小作人ニ於テ毫モ干涉スヘキ權利ナシトス故ニ本訴小作地ノ盛控同様ノ地ナルヲ口實トシ直チニ減租ヨリ生スル貳分ノ引米ヲ受領スヘキ當然ノ權利アリト謂フ得サルモノ

トス如何トナレハ盛控ト云ヒ一季小作ト云フモ齊シク地主ト小作
 人トノ間ヲニ存スル私約ニ屬シ唯々其地所ノ耕作ニ關シテ永小作
 ナルト否ヲサルトノ區別ヲ有スルニ止マリ敢テ其地所ノ所有權ニ
 關シテ異ナル所アルコトヲ見ス故ニ若シ地主ニ於テ其地所ニ課賦ス
 ル地租ヲ怠ルコトアルキハ明治十年第七十九號布告ニ據リ其地所其
ハ即チ地主ヲ公賣スルノ處分ヲ爲スヘクシテ直チニ其所有主ニア
 ラサル小作人ノ財産ヲ公賣シテ徵收スルノ處分ヲ爲スヘキモノニ
 非サルノ法律ヲ以テモ地租ハ地主ニノニ關係シテ小作人ニ關係セ
 サルノ條理ナルコトヲ見ルヘシトス然ラハ則チ大阪上等裁判所ニ於
 テ明治十年一月四日ノ布告ニ基ツキタル貳分ノ引米ヲ舉テ小作人
 ノ得益ニ歸スヘクシテ地主ノ受領スヘキ理由ナキ旨判決シタルハ
 不當ナル判決ナリトス

第二條

本件ノ地所タルヤ當初ヨリ盛控タルノ原因詳ラカニセヌ上告第
 四號本田藏入諾上知分限帳面他ノ盛控地記載ノ比例ニ適合セサル
 コトヲ視レハ素ヨリ純粹ナル盛控ニアラサルヘシト雖モ被上告第七
 號ノ始末書及ヒ第九號戶長証認書ノ如ク慶應四年即チ改元ニ付
明治元辰年 滯借借上ニ付地元四分作人六步宛ノ調達金ヲ爲シ又被上告第十四
 號ノ如ク文政四年免上リニ付地主作人折半其後兩度分作人ヨリ辨
 納ト爲シ及ヒ第十一號ノ如ク新井堀入費ノ内若干チ年々作人ヨリ
 拂ヒ出シタル等ノ事迹ニ徵スレハ地主作人ノ間業ニ已ニ尋常一般
 ノ一季作ヲ以テ同視セズ固ヨリ盛控ニ準スヘキ永小作タルコトヲ認
 許セシ實迹アルモノト謂ハサルヲ得ス何トナレハ尋常ノ一季作ニ
 シテ斯ノ如ク作株高ニ割附ケ得ヘキ事由ナク小作人ニ於テモ其割

附テ甘受スヘキ情由萬々アル可ラサル筈ナレハ果シテ地主作人ノ
 協議ニ出テタル割附ナリトスルモ之カ協議ヲ遂ケタル所以ノモノ
 ハ亦以テ尋常一季作ニ同視セサルニ起因スル所ノ協議ノ結果ナリ
 シヲ認知シ得ヘケレハナリ而シテ右被上告第九號第十四號ハ全
 シ本件ノ争訟ニ關シ他ノ同性質ナル小作人等ニ於テ之カ証認ヲ受
 ケタルモノナレハ上告人ニ於テ特ニ本訴ノ小作地ハ右証認書ニ係
 ル所ノ同性質ニ非ルヲ證明セサル限りハ固ヨリ本訴ニ適用スヘ
 キ確証ナリトス被上告第十六號作株永代買受証書〔被上告カ証書ノ
 ギトアレ其本紙コハ字宮ノクボト〕ニハ地主上告人ノ承諾印ヲ見
 サルモ被上告第二號ニ田村作株賣買ノ儀ハ地主承諾印ヲ請ケサレ
 且作人共勝手ニ賣買シ來ルノ村例ナル旨ヲ戸長ニ於テ證明セシニ
 依リ右買受証書コハ必スシモ地主ノ承諾印ヲ要セサルヘシ殊ニ被

上告人ニ於テハ右買受証書ノ如ク十餘年前ニ在テ先小作人タル嘉
 平ヨリ之ヲ買受ケタル以後實際小作シ來リタルニ相違ナク明治三
 年上告人ニ於テ被上告人ニ對シ改メテ一季小作ニ宛附ケタルヲ
 証スヘキモノナキ上ハ被上告者ハ先小作人カ有セシ丈ケノ權利ヲ
 相續セシモノニシテ所謂盛控ニ準スヘキ一種ノ永小作人ナリト認
 定スヘキモノナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ尙ホ本院ニ於テ
 嚮キニ明治十二年十一月十七日宣告セシ辨明並ニ判決ヲ改メ更ニ判
 決ヲ與フルヲ左ノ如シ

一 小作ノ性質ハ辨明第二條ノ如ク尋常一季作ニ非スシテ盛控ニ準
 スヘキ一種ノ永小作ナリトス

一、租税ニ基ツキタル賦分ノ引米ハ辨明第一條ノ如ク地主即チ上告
人ニ於テ之ヲ受領スヘキモトス
但シ上告ニ係ル訴訟入費ハ被上告人ヨリ辨償シ其他ノ入費ハ各
々自辨タルヘシ

第二百二十一號

○判文明治十三年八月廿七日上告

高知縣土佐國香美郡田

村二百十九番地平民北

村久米次代人

同村平民

谷村虎治

東京府神田區淡路町登

丁目壹番地寄留愛知縣

平民

右代言人

山賴三郎

高知縣土佐國香美郡田

村百四十九番地平民末

政長作代人

同縣同國土佐郡中新町

士族

被上告

武市正名

宛口米不拂ノ上告一件檢事ノ求ニ依リ再審ヲ遂クル處上告人
〔控訴原
作〕於テ大阪上等裁判所シ裁判ヲ不法ナリトスル主點ハ上告第一號
乃至第二拾號等ノ証書ニ據リ本件地所ハ盛控同様ノ小作地ニシテ一

季作ニ非ルヲ明白ナレハ明治十年一月四日ノ布告ニ基ツキ減租トナ
 リタル所ノ二分ノ引米ハ上告人ノ所得ニ歸スヘキモノナリ然ルニ上
 告人〔控訴原告〕ニ於テ所得トナスヲ得ス被上告人〔控訴被告〕請求ノ通
 リ拂渡スヘキ旨判決セラレシハ不當ナリト云フニ在リ而シテ被上告
 ニ於テハ第壹號乃至第八號証書等ヲ引援シテ一季小作ナリト主張
 シ以テ原裁判ノ當ヲ得タル旨之ヲ辨護セリ依テ其主点ニ對シテ之
 カ辨明ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

夫地租ハ其土地ヲ所有スル者ニ賦課スルモノニシテ地租ヲ上納ス
 ルハ土地ヲ所有スル者ニ於テ當然負擔スヘキ義務ナルニ由リ仮令
 其小作人ヨリ直チニ其地租ヲ上納スルヲアルモ畢竟地主ノ便宜ト

村方ノ習慣トニ基ツキ地主ノ上納ス可キ地租即チ地主カ自己シ負
 擔スル所ノ公義務ヲ小作人ナシテ尽サシムト謂フニ過キサルカ故
 ニ其小作ノ盛控ナルト否ラサルトヲ區別セシ減租ノ引米ハ地主ノ
 受領スヘキモノナリトス但シ地主ニ於テハ其貢租ノ増額ヲ生シタ
 ル場合ニ丁リ之カ増額ニ應ジ其豫定セシ加地子米ノ外ニ在リテ更
 ラニ相當ナル増米ヲ要スルノ權利アルニ由リ小作人モ亦其反對ノ
 場合タル即チ貢租ノ減額セシキニ際シテ其減額セシ丈ニ準シ其加
 地子米ノ低減ヲ求メ得ヘキ事由ナシト謂フ可ラサルカ如クナルモ
 前ニ示セルカ如ク本來減租ノノニ就テハ小作人ニ於テ毫モ干渉ス
 ヘキ權利ナシトス故ニ本訴小作地ノ盛控同様ナルチ口實トシ直チ
 ニ減租ヨリ生スル貳分ノ引米ヲ專領スヘキ當然ノ權利アリト謂フ
 能ハサルモノナリ如何トナレハ汎然盛控ト云ヒ一季作ト云フ齊シ

地主と小作人との間ニ存スル私約ニ屬シ唯々其地所ノ耕作ニ關シテ永小作ヲシテ否ヲサルトノ區別ヲ有スルニ止リ敢テ其所有權ニ關シテ異ナル所アルコトヲ見ス故ニ若シ地主ニ於テ其地所ニ賦課スル地租ヲ怠ルコトアルハ明治十年第七十九號布告ニ據リ其地所ヲ公賣スルノ處分ヲ爲スヘシシテ直ニ其地所ノ所有主ニアラサル小作人ノ財産ヲ公賣シテ徵收スルノ處分ヲ爲スヘキモノニ非ルノ法律ヲ以テモ地租ハ地主ニシテ關係シ小作人ニ關係セサルノ條理ナルコトヲ見ルヘシトス

第二條

本訴ノ地所タルヤ初メヨリ盛控タルノ原因ヲ詳ラカニスルニ由シ無シ而シテ上告第四號本田藏入諸土知分限帳他ノ盛控地記載ノ比例ニ適合セサルコトヲ觀レハ素ヨリ純粹ナル盛控ニアラサルヘシト

雖第七號ノ始末書及ヒ第九號戶長証認書ノ如ク慶應四年〔即改元治元〕藩債借上ニ付地元四步作人六步宛ノ調達金ヲ爲シ又上告第拾四號ノ如ク文政四年宛上リニ付地主作人折半其後兩度分作人ヨリ弁納ヲ爲シ及ヒ上告第十一號ノ如ク新井堀入費ノ内若干チ年々作人ヨリ拂出シタル等ノ事迹ニ徵スレハ地主作人ノ間業ニ已ニ尋常一般ノ一季作ヲ以テ同視セス固ヨリ盛控ニ準スヘキ永小作タルコトヲ認許セシ實迹アルモノトス何トナレハ尋常ノ一季作ニシテ斯ノ如ク作株高ニ割附クヘキ理由無ク小作人ニ於テモ其割附ヲ甘受スヘキ情由萬々アル可ラサル管ナレハ果シテ地主作人ノ協議ニ出テタル割附ナリトスルモ之カ協議ヲ遂ゲタル所以シテモ亦以テ尋常一季作ト同視セサルニ起因スル所ノ協議ノ結果ナリシコトヲ認知シ得ルハナリ而シテ上告第九號第十四號ハ全ク本件ノ爭議

ニ關シ他ノ同性質ノ小作人等ニ於テ之カ証認ヲ受ケタルモノナレハ被上告人ニ於テ特ニ本訴ノ小作地ハ右証認書ニ係ル所ノ同性質ニ非ルコトヲ証明セサル限リハ固ヨリ本訴ニ適用スヘキ確証ナリトス將又上告第十五號〔安政六年〕拾六號〔慶應三年〕十二月付〔作株永代買受証書〕ハ地主被上告人ノ承諾印ヲ見サルモ上告第二號ニ田村作株賣買ノ儀ハ地主ノ承諾印ヲ請ケサレモ作人共勝手ニ買買ヨ來ルノ慣例ナル旨ヲ戶長ニ於テ証明セシメ依リ右買受証書ニハ必ラスシモ地主ノ承諾印ヲ要セサルヘシ殊ニ上告第拾八號ノ如ク安政六年乃至慶應三年ノ納所方通帳ニ本訴論地ノ小作人ハ上告者ノ先代増平ノ名前アルヲ見レハ右買受ケタル以後直チニ小作シ來リタルニ相違ナク明治三年被上告人ニ於テ上告人ニ對シ改メテ一季小作ニ宛附ケタルコトヲ証スヘキモノナキ上ハ上告人ハ先小作人カ有セシ式ク

ノ權利ヲ相續セシモノヨシテ所謂盛控ニ準スヘキ一種ノ永小作人ナリト認定スヘキモノナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ尙ホ本院ニ於テ纏キニ明治十二年十一月十七日宣告セシ辨明並ニ判決ヲ改メ更ニ判決スル左ノ如シ

- 一 減租ニ基ツキタル貳分引米ハ前辨明第一條ノ如ク地主即被上告人ニ於テ之ヲ受領スヘキモノトス
- 一 小作ノ性質ハ辨明第二條ノ如ク尋常一季作ニ非スシテ盛控ニ準スヘキ一種ノ永小作ナリトス

但シ上告ニ係ル訴訟入費ハ被上告人ヨリ辨償シ其他ノ入費ハ各々自弁タルヘシ

○貸金請求一件東京上等裁判所裁判不法上告ノ判文
上告明治十三年七月十三日
八月廿八日申渡

岐阜縣美濃國郡上郡氣
真村平民高田新右衛門

代人

東京京橋區北紺屋町九

番地西具源藏方寄留千

葉縣平民

原告

小川甚藏

岐阜縣美濃國郡上郡畑

佐村平民

被告

清水吉右衛門

上告ノ要領

第一條

被告乙第五號乙丙丁ノ三証ニ記載アリシ被告ノ名宛ヲ切抜キ原告
ノ名宛ニ改メシハ被告ハ原鏡治郎ト親戚ノ間柄ナルヲ以テ鏡治郎
カ原告ヨリノ負債ヲ被告カ引請辨償スルコトナリシニ付鏡治郎ノ
家屋ハ被告へ買受ケノ姿トナシタルニ因リ乙丙丁ノ三証ハ被告名
宛ニナシタル所以ナルモ被告ハ鏡治郎ノ負債ヲ債主原告へ辨償ス
ル能ハサルカ故ニ被告ハ該乙丙丁ノ三証ヲ鏡治郎へ返戻シ鏡治郎
ヨリ原告ノ買受ケル所トナリタリ是被告乙第五號乙丙丁ノ証書ノ
一旦鏡治郎ヨリ被告ノ名宛ニ記載セシ其被告ノ名宛ノミヲ切抜キ
原告ノ名宛ニ改メシ所以ナリ若シ被告ヨリ原告へ賣渡セシモノナ

ヲシヨハ乙丙丁ノ証書ニハ被告ヲ賣主ニ記載スヘシテ鏡治郎ヲ賣主ニ記載スヘキ道理ナキニ現ニ乙丙丁ノ三証ハ賣主ハ鏡治郎ノ名前ニ買主ハ原告ノ名前ニ記載アリテ被告ノ名前ノ記載ナキハ鏡治郎ヨリ原告へ買受タルノ明証ナリ然ルニ原裁判所ハ被告乙第五號乙丙丁ノ証書ハ被告ヨリ原告へ渡シタルモノトモフレシハ不法ト思考ス

第二條

原告第四號証即チ被告乙第五號甲印ノ証書タルヤ明治十年三月十八日鏡治郎ヨリ被告へ地所ヲ賣渡タル証書ニシテ該証書チ原告ノ所持スル所以ハ原告ヨリ被告へ金百拾五圓九拾錢貸與ヘシテ以テ抵當トシテ受取置タルニ被告ハ該金返濟スル能ハサルヨリ被告乙第六號証ニ書換第四號証ノ地所ヲ原告へ買受タリ其証タル被告乙

第六號証ニ右ノ地所本年三月十八日原鏡治郎方ヨリ買受候ニ付金子貴股方へ前書ノ金員借用致則買取置候處右金返濟難相成ヨリ無據前頭ノ地所貴股へ賣渡シ申處確實也トアリテ該六號証ニ記載アル地所ハ第四號証ニ記載アルト同一ナレハ甲第一號証ノ他ニ明治十年三月十八日貸金アルコトハ乙第六號証ノ文中ニテ明カナリ左スレハ原告第四號証タル原告ノ出金シタルモノナル言チ埃クス然ルニ原裁判所ハ原告第四號証ハ原鏡治郎ヨリ被告へ宛タル証書ニシテ該証ノ金額ハ原告カ出金シタルノ証據無之ト裁判アリシハ不法ト思考ス

辨明

第一條

被告乙第五号乙丙丁ノ証書チ閱スルニ乙印ノ証書ハ書入假ニシテ

「右ノ金子右代金并諸入用ニ差當リ前書之金員正ニ借用申處確實也」
 トアリ丙印ノ証書ハ賣渡コレテ右此代金拾四圓五拾錢ニ賣渡シ申
 處實正ニ御座候トアリ而シテ丁印ノ証書ハ乙印ノ証書ニ記載アル
 抵當物ヲ賣渡ニナレタルモノニシテ何レモ公正ノ手續ヲ經タルモ
 ノナリ又被告乙第貳拾七號原鏡治郎カ初審ノ口供ニ照スニ乙第五
 號乙印同号丙印同號丁印ノ三証ハ元自分ノ賣主又ハ借用証文ニテ
 宛名ハ清水吉右衛門ニ有之候處吉右衛門ニ於テ新右衛門方ニ金百
 八拾圓也〔元自分負債ヲ吉右衛門ヘ引受杉山尙太方ヘ返〕返金ノ代リ
 トシテ右証文ニ記載アル地所板藏等ヲ賣拂ノ約定トナリ云々トア
 リテ被告乙第五号乙丙丁ノ証書ニ記載アル家屋ハ鏡治郎ヨリ被告
 へ買受ノ姿ニナシタリトノコトハ原告ノ陳述ニ止リ其證據ナケレハ
 被告乙第五號乙丙丁ノ証書ニ記載アル家屋ハ証書明文ノ如ク被告

カ鏡治郎ヨリ買受ケタル者トセサルヲ得ス既ニ該家屋ヲ被告ニ於
 テ買受タル上ハ原告ニ於テ該家屋ヲ鏡治郎ヨリ買受ケルヲ得可カ
 ラサルヲミナラヌ被告乙第五號証乙丙丁ノ証書ハ被告カ所持スヘ
 キモノナレハ被告ノ承諾ナクシテ該証書ニ記載アル被告ノ名前ヲ
 切抜キ原告ノ名前ヲ貼付スルカ如キハナシ得ヘカラサルモノトス
 然ルニ被告乙第五號証乙丙丁ノ証書中被告ノ名前ヲ切抜キ原告ノ
 名前ヲ貼付シタルハ原告ハ該家屋ニ付被告ノ代權人トナリタルカ
 故ナリトセサルヲ得ス是原裁判所カ該証書ハ被告ヨリ原告ヘ渡シ
 タルモノトセシ所以ナレハ不法ノ裁判ニ非ストス

第三條

被告乙第六號証タルヤ明治十年十月廿七日附テ以テ被告ヨリ原告
 宛テシテ始メニ賣渡添証券トアリテ其文中ニ右之地所

本年三月十八日原鏡治郎方ヨリ買受候ニ付ト記載アレハ該証書ハ明治十年十月廿七日ヲ以テ原告第四號証即チ明治十年三月十八日附原鏡治郎ヨリ被告名宛ノ地所賣渡証書ニ添へ被告ヨリ原告へ渡シタルモノナリトス何トナレハ凡ソ添書ナルモノハ本書ニ附屬スヘキモノナルノミナラズ原告第四號証ハ鏡治郎ヨリ被告へ宛タル賣渡証書ナレハ被告乙第六號証アラサレハ原告第四號証ノミニテハ該証書ニ記載ノ地所カ原告ノ所有ニナリシテ証スル能ハサレハ原告ニ於テ原告四號証ハ必ズ被告乙第六號証ヲ添へサレハ受取ルヘキ道理ナケレハナリ夫レ斯ノ如ク原告第四號証ハ明治十年十月廿七日ヲ以テ始テ原告へ受取タルモノコシテ其以前即チ明治十年三月十八日ニ原告へ抵當トナリシ証據ノ見ルヘキモノナケレハ明治十年三月十八日ニ被告へ金百拾五圓九拾錢貸付タリトノコトハ無

証ノ申立ニ歸スルモノニシテ無証ノ申立ハ信用スヘキモノニ非ス而シテ原告第一號証ノ外被告ニ對シ金圓ヲ請取ヘキ權利アル証ヲ出サレハ被告乙第六號証ニ右ノ地所本年三月十八日原鏡治郎方ヨリ買取候ニ付金子貴殿方へ前書ノ金員借用致則買取置候處右金返濟難相成ヨリ無據前顯ノ地所貴殿へ賣渡シタル其前書ノ金員ナルモノハ原告第一號証ノ殘金ニシテ被告ハ該第一號証ヲ以テ借用セシ殘金ヲ返濟ナシ能ハサルヨリ明治十年三月十八日ニ原鏡治郎ヨリ買受置タル原告第四號証ノ地所ノ内ヲ原告へ渡シタルヲ記載セシモノト解釋セサルヲ得ス故ニ原裁判所カ原告第四號証ノ金額ハ原告カ出金シタルノ証據無之ト裁判セシハ不法ニ非ストス

判決

前條々ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ

○鹽田井ニ同器械引揚執行一件上告ノ判文
明治十三年七月十六日申渡

原告

愛媛縣讚岐國香川郡天

神前五拾三番邸士族國

分七平

同縣同國同郡中新町百

廿八番邸士族河合辰五

郎

大坂府北區絹笠町四番

地寄留高知縣平民

右代人

津野毅一郎

東京府京橋區新肴町拾

番地平民

右代言人

方波見祐助

愛媛縣讚岐國香川郡北

龜井町拾九番邸士族

被告

窪谷作平

同縣同國同郡築地町拾

五番邸平民

同

玉垣武平

同縣同國同郡新材木町

五拾一番邸士族

大坂上等裁判所ノ裁判ハ不法ナリトノ上告ニ對シ辨明及ヒ判決ヲ與
フルヲ左ノ如シ

辨明

上告者ハ松山裁判所高松支廳ノ裁判ハ前裁判ニ背馳スルモノト思
料シ大坂上等裁判所へ覆審ヲ乞ヒタル次第ナレハ該上等裁判所ハ
細カニ事理ヲ審按シ前後ノ裁判其背馳スルト否トシ裁判アルヘキ
筈ナルニ後ノ裁判ハ前裁判ヲ辨明シタル命令書ニ過キサルモノト
ノ言渡ヲ以テ控訴狀ヲ却下シタルハ甚ダ不法ノ裁判ナリト申立タ
リ依テ松山裁判所高松支廳ニオイテ明治十二年十二月十二日言渡
シタル裁判書ト明治十三年三月廿七日同廳カ下付シタル申渡書ト
ヲ比照熟閱スルニ前裁判書ハ原被告引合人ノ申述ヲ列記シ而シテ

判意ノ歸着ハ該訴ノ被告タル玉垣武平柴權六等カ舊名東縣ノ裁判
已前鹽田ヲ引合人國分七平外一人へ賣却シタリトノ云々ハ事理曖
昧ニ屬スルヲ以テ不採用到底正當ニ賣却シアリタルモノト不認定
ト云ニアリ此申渡ニ因テ爾來上告者前訴引合人ハ遁ル可ラサル至重ノ
義務ヲ負フタリ然ルニ該裁判確定ニ至ルモ尙ホ執行セザルヲ以テ
明治十三年三月二十七日同支廳ニオイテ裁判ノ執行ヲ申渡シタル
也視ル可シ其文詞ハ前裁判ノ意旨ヲ受ケ然レテ結局被告金員ノ不
調ヲ口實トシテ難差戻旨引合人ノ答辨ハ不相立ニ付鹽田及ヒ器械
共運ニ被告へ差戻シ原裁判ノ執行ヲ遂可シト云々シタリ是レ一個
ノ裁判ニ非スシテ執行ヲ申渡シタルモノ也故ニ原上等裁判所ニオ
イテ確定裁判執行ニ付辨明ヲ與ヘタル命令書ニ過キサルモノトシ
控訴狀却下シタルハ當然ニテ受理審按ス可キモノニ非ストス況ヤ

該申渡書ハ毫モ前裁判ノ旨意ニ背馳セサルモノナルニ於テヤ

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノトス

第二百二十四號

○判文明治十三年四月廿八日上告
明治十三年八月三十日申渡

京都府丹波國天田郡長

田村外二ヶ村總代長田

村住同府士族

上告人 高橋次郎兵衛

東京府日本橋區本兩替

町十一番地寄留堺縣士

族

右代言人 藤 卷 正 太

京都府丹波國天田郡田

野村總代同村平民

被上告人 西 垣 宇 作

東京府神田區今川小路

壹丁目壹番地寄留群馬

縣士族

右代言人 廣 瀬 帆 三

山地所有爭論一件大阪上等裁判所ノ裁判ヲ不法ヲリトシテ上告スル

要旨左ノ如シ

第一條

判文第一條ニ被告(長田村外二ヶ村)第一二三號及ヒ第十三號証ハ原告(田野村)之レヲ認メスシテ其第一號証中田野村庄屋七左衛門名下ノ印影相違セルヲ証セシ爲メ提供セル其同年度ニ係ル第十五號証ノ印影ト比照スルニ全ク相違セルノミナラス該証等ハ他村トノ争訟ニ係ル書類ニシテ本訴原被間於テ該山ノ所有權ヲ争フ適証ニ非ヌ云々トアレト上告第一二三號及ヒ第十三號ノ証ハ皆貳百有余年以前ノ書類ニシテ一モ概近故造シ能ハサルモノナリ而シテ其第一號印影相違ノ如キハ往昔僻陋ノ村落ニ在テハ必ス一定セヌシテ其時々所用ニ際シ有合セノ印影ヲ押捺シタルハ一般ノ習慣ナリ故コ是等ノコトニ依テ判斷チナスヘキモノニ非ス宜シク當時ノ事實習慣等ヲ推究シテ之レカ斷定チ下サシルヲ得ヌ又第一號証ハ他村トノ争訟ニ關ル書類ナルトモ其主眼トスル處ハ同シク今般ノ論山ヲ争

フタルモノナレハ之レヲ適証ト云ハスシテ何シヤ然ルニ法官ハ初行ニ田野村總百姓ト記シタルニ拘泥シ同村ノ所有ト認メラレタレト其文中第二項第五項第十一項ニ因テ看ルモ原被四ヶ村ヨリ該山ノ山税ヲ納メ來リシ理由續々明記アリテ從前ヨリ田野村一己ノ所有山地ニアラサルハ照然タリ又上告第四五六號証ハ皆被上告田野村ヨリ上告村ヘ寫シ越シタルモノニテ是亦貳百有余年ノ星霜ヲ經タル書類ニテ本件詞訟ノ爲メ構造セシモノニアラサレハ押印ノ有無ハ措キ真正ノ書類タルハ一閱シテ知ルヘシ然ルニ法官ハ上告者ノ陳述ヲ信用セラレヌシテ該山ヲ田野村ノ所有地ト認メラシメタルハ審理ヲ盡サシル不法ノ裁判ナリトシ

第二條

判文同條ニ今原告(田野村)提供セル檢地帳ヲ閱スルニ本訴争フ處ノ

山野ヲ揭ケ總村分ト明記シ而シテ其末文ニ田野村檢地依被仰付云々トアレハ該山野ノ持主タル田野村人民ナルヲ明白ナリ〔中略〕其末項ニ被告ハ該山野へ入會ノ爲メ原告村ト協議上其山稅幾分ヲ負擔シ之レテ原告村へ收入セシモノト認定ス〕トアリ夫ノ檢地帳ニ總村分又其末項ニ田野村檢地依被仰付候トアルヲ以テ檢地ヲ受タル當時ヨリ田野村ノ所有地ト云フノ謂ナルヘケレハ大ニ誤マラレタルモノナリ如何トナレハ當時該山地ハ小物成ニシテ官有地ナレハ一人一村ノ所有シ得ヘキモノニ非ス其所以ハ檢地帳ニ山地反別ヲ記スル前ニ右ノ外ト記載セアルノミナラズ被告上告第二号証免定中第一二三項ニ該山稅ノ高キ記ス前ニ右ノ外小物成ト明記シアレハ無論田野村高外ノ小物成山ナルハ明瞭ナリ果シテ然レハ總村分ト記セアルモ原被四ヶ村ニテ等シク山稅ヲ負擔シ四ヶ村ノ用方ニ充テ

タルモノナレハ反テ原被四ヶ村共有ノ山地トナルヘキノ徵証ナリ又元來該論山ハ被告上告村ノ所属地ナレハ同村ヨリ直ニ山稅ヲ官納スルハ所属村當然ノ所爲ト云フヘシ決シテ之ヲ以テ田野村所有ノ山地ト云フヲ得ス殊ニ上告村ニ於テ第八及ヒ十一二十三十七號証ノ如ク田野村ヨリ官へ上納スル迄ノ人足賃並ニ包代共同村へ取立タルヲ觀レハ事實ニ於テ上告三ヶ村ヨリ直ニ官納セシモノナリ然レハ山稅ヲ直接ニ納ムルト間接ニ納ムルトニ據テ其地ノ所有ト否トヲ判定スヘキモノニ非ス故ニ檢地帳免狀ノ如キハ特ニ被告上告村へ該山ノ所属ヲ証明スヘキモノニテ所有ヲ爭証スヘキモノニ非サルニ所属ヲ所有ト誤認セラレタルハ不法ナリトノ

第三條

判文第三條ニ被告ハ本訴所爭ノ山野毛上入會ニ止リ共有地券ヲ受

領スヘキ權利ナキモノ也」下裁判セラレタレトモ抑該論山へ四ヶ村
 入會シ來リタルハ原被ノ口供符合スルヲ以テ明ナリ而シテ彼ノ山
 税ヲ納メ來リタル上告第七八九及ヒ第十十一二十四十五號證據書
 ニ至ツテハ被上告ハ恩償米銀ノ受領書ト申立上告者ハ該山税ノ受
 領書ト云フ依テ山税ノ受領書カ將々恩償ノ受領書カヲ辨別セサル
 へカ被上告ハ該書ヲ恩償ノ受領書ト云ハ果シテ其証アルカ又
 理由アルカ決シテ之レカシ上告者ノ山税ノ受領書ト云ハ他ナシ前
 證書中「山手御年貢三ヶ村山役銀山役米上納山税米」ト明記シタル
 ヲ以テナリ既ニ如斯山税ヲ官納シ來リタル確証明白ナルモノナレ
 ハ明治五年大藏省地券渡方規則增補第三十五條ニ依テ處分スヘキ
 モイナルヲ被上告ノ證據ニ固着シ之ヲ誤解セラレタリトノ事
 被上告者ハ上告要旨ヲ不當ナルコトヲ陳述シ原裁判所ヲ辯護セリ

依テ辨明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如ク

上告人ニ於テ上告要旨第二條第三條ノ如ク申立ルニヨリ之ヲ審案
 スルコト凡人民カ地租ヲ公納スル手續ハ村吏ヲシテ之ヲ徵集セシメ
 タルヲ舊政府以來一般ノ慣例ナレハ人民カ租税ヲ官納セシ證據ヲ
 掲ケルニハ村吏ノ受領書ヲ措テ他ニ之レニ勝レル憑據アルヘカヲ
 ナ本訴上告第七八九十一十二十四十五ノ七証ハ被上告村吏ノ仕渡
 シタルモノニシテ山役銀山税米等ノ名稱アリ被上告者ハ之ヲ毛上
 入會ニ對スル恩償米ノ受領書ニシテ貢租ノ受取書ニアラスト云モ
 其證據ヲ舉示セシコトアラサレハ之ヲ貢租ノ受領証ト爲シテ判決ス
 ルハ當然ナリトス而シテ被上告第二號証免定ナルモノハ村吏ノ小
 前ニ取集ムヘキ總高ヲ記載シ村役場ニ下付シタルモノニテ税納

者ノ確ナルヤヲ記載セス又同第三四號証ハ村吏カ小前ヨリ取集タル
 總高ノ内ヲ官納シタル証ニシテ税納者ノ誰タルヲ知ルコ由ナキ
 モノナレハ俱ニ論所ニ對スル租税ノ官納者ヲ証スルニ足ラサルモ
 ノトス抑租税ナル者ハ土地ヲ所用セシニ因リ生スル所ノ公義務ニ
 シテ上告者カ實際論所ニ入會其公義務ヲ盡シタルト上文ノ如ク明
 ラカナリ而シテ其入會權限ニ幾干ノ限界アリト見ルヘキモノアラ
 サレハ古來平等ニ使用シ來リタルモノト見做サレ得サルモノ
 ナリ然レハ則本訴ノ論地ハ被上告者ノ第一號証檢地帳ニ總村分ト
 記載セラ上告三村ノ入會ナルトヲ記載セサルニヨリ被上告者ノ所
 有ト爲スヘキ賦將ヲ實際ノ形迹ニヨリテ原被告ノ共有トスヘキ至
 ハ双方ヨリ提供スル證據ノ威力如何ヲ較量シ以テ之カ判決ヲ爲ス
 ヘキモノナルニ原裁判所於テ被告ノ上告人ノ事 第八號乃至第十二號
 ナリトス

証及第十四五號証ハ原告ノ被上告人ノ下同ノテ即チ恩償米銀ノ受領
 書ナリト云ノミナラス云々總テ原告村吏ノ領受書ニシテ被告村ニ
 リ直ニ官納セシ証ニ非ス而シテ原告第二號証ノ如ク舊領主又ハ管
 轄ヨリ免定書ヲ原告一村ヘ下付セラレ同第三號第五號証ノ如ク之
 ナ原告村ヨリ收納セシヲ以テ觀レハ云々ト説示シタル末上告村ハ
 毛上入會ニ止マリ共有地券ヲ受クルノ權ナシト裁決シタルハ法理
 ナ誤リタル不適當ノ裁判ナリトス

但上告者ハ被上告第一號証ニ總村分トアルハ原被四ヶ村共有ノ
 山地トナルヘキ徵証ナクト云モ果ノ四ヶ村共有ナルニヨリテ總
 村ト記載セシモノトスルハ山地九拾町三反貳畝歩ノ下ニ總村
 分ト記載アルヲ以テ論外ナル貳拾九町四畝歩ノ山地ヲモ共有ト
 云ハサルヲ得サルニ至リ不都合ナルヲ以テ右中分ハ相立カタク

且上告者ハ上告要旨第一條ニ申立ル條項アリテ其指摘スル所ノ判文中穩當ナラサル廉アルモ畢竟參照ニ止マル古書類ニ對シ與ヘタルモノニテ破毀ヲ求ムル要點ニテラサルヲ以テ爰ニ辨明ヲ與ヘサルモノトス

判決

右ニ辨明セシ如クナルコヨリ本訴ニ對スル大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ東京上等裁判所ヘ移スコヨリ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリ

但上告ニ付テノ訴訟入費ハ被上告者之ヲ償却スヘシ
第二百二十五號

○約定謝金請求一件上告ノ判文明治十三年七月十日
明治十三年八月三十日申渡
原告 大阪府西區江戸堀北通

三丁目六番地平民矢野

數郎

東京府神田區今川小路

壹丁目壹番地寄留郡馬

縣士族

右代言人

廣 瀬 帆 三

大阪府北區安治川通南

二丁目平民

被告

南 方 一 郎

大阪上等裁判所ノ裁判ハ不法ナリトノ上告ニ對シ辨明及ヒ判決ヲ與
フルヲ左ノ如シ

弁明

上告者ハ原上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシテ種々申立レトモ其主要
 トスル點ハ原判文ニ該其ノ字ヲ熟閱スルニ其金高トアル其ノ字ノ
 如キハ他ノ字体ニ比フレハ殊ニ長大ナルノミナラス數回加筆セシ
 痕跡明晰タルニヨリ云々該其ノ字ノ部分ニハ他ニ字体ノ有之シテ
 后日ニ至リ描改セシヤ疑ヒテ容ル可ラス況ンヤ文章上ニ就テ觀ル
 モ其トハ前文既ニ指示シタル爭柄ヲ承ルノ文字ナリ然ルニ該約定
 書ノ如キハ前文更ニ金員ノ明文ナケレハ卒然其金高ト記載ス可キ
 理アラサルニ於テヲヤトアレトモ上告一號証中其金高トアル其ノ
 字ハ該件成功ト云フ文詞ニ起リ而シテ其成功不成功ハ一件勝敗ノ一
 ヲ指シタル言詞ナレハ該契約書ハ充分旨趣ヲ盡シタルモノナルニ
 原上等裁判所ハ契約全旨ヲ視誤リ前顯ノ如キ裁判ヲ下シ加之其描
 改ヲ爲セシ原文字タル如何ナル文字ヲ記載セシヤ其文体ノ認ム可

キモノナケレハ義務者タル原告カ解釋ヲ降ス如ク云々ト斷定セラ
 レタルハ偏頗不當ノ裁判ト云コアリ依テ上告一號ノ証書ヲ熟閱ス
 ルニ前文云々之略該件成功ノ上ハ其金高十分ノ一ヲ差出可申候尤入
 費日當トシテ金拾五圓差出可申候且此外ハ一切差出不申候トアリ
 然シテ其金高トアル其ノ字体ハ長大ニシテ左右兩行ノ字体ニ比フ
 レハ兩箇ノ文字ヲ併セタルニ餘リ墨色深黒ニシテ原書ノ何タルヲ
 辨シ得サレトモ入墨描改セシハ疑ヒテ容レサルナリ抑上告一號ノ
 証書ハ飛燕丸控訴事件ノ代言ヲ上告者へ委託シタルモノニテ被上
 告カ可取入金高ハ該判決ヲ經サレハ確定ス可キモノニ無之故ニ該
 証前文ニハ豫定ノ金高ヲ記載シ置サリシ是レ原上等裁判所カ其
 判文中卒然其金高ト記載ス可キ理由アラスト認定シタル所以ナリ
 又上告者ハ其一號証書ニアル該件成功ノ文字ハ直者ノ判決ヲ得タ

ル時ヲ指シタリト申立レモ決シテ然ラズ如何ントナレハ該件ニ就
テ入費日當ハ金拾五圓ノ外不差出等結約ノアルアレハ右控訴事件
ニ付テハ被上告ハ上告者ニ對シ既ニ出金ノ義務ナキモノナリ左ス
レハ成功ノ文字ハ金圓握手ノ時ヲ指シタルモノト見解ヲ下ラスノ
外ナキモノトス故ニ原上等裁判所ニチイテ其措改ヲ爲セシ原文字
タル如何ナル文字ヲ記載セシヤ〔零〕下云々トシ被上告カ解釋ヲ採用シ
タルハ敢テ過當ニアラストス何ントナレハ被上告ハ金圓取入ノ上
ナラテハ到底金高十分一ノ出金ヲ爲スヘキ契約ト視ルヲ得可ラサ
ルヲ以テナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキモ
ノトス

第二百二十六號

○判文 明治十三年七月廿六日上告
明治十三年八月三十日申渡

東京府日本橋區住吉町
十四番地寄留千葉縣平
民吉野常次郎代官人
東京府淺草區向柳原町
二丁目八番地寄留茨城
縣平民
上告 尾 木 漸
千葉縣上總國長柄郡小
林村平民
被告 吉野喜三郎

預ケ地券取戻一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ上告スル要領ハ左ノ如シ

第一條

上告者カ初審中自分ハ當時長男芳太郎有之被告〔初審被告即〕申立ノ如シ順養子ト爲シ一家ノ財産ヲ舉テ讓與スルノ存意無之旨陳述シ又終審々問ノ初メ追テハ分家セシムルノ存意ナル旨供述セシ等ノ廉ニ據リ上告者カ錯誤ノ口供即チ原告〔控訴原告即〕ハ被告〔控訴被告即〕ノ順養子ニ致シ長男ナルヲ以テ芳太郎ハ次男ナリ而シテ明治七年ハ廿五才ニシテ徵兵適當ノモノナルカ故ニ村方ニ差遣シ其筋ノ檢査ヲ受ケタリトノ口供ハ一時ノ錯誤ナルヲ証スルニ足ルヘシ被上告第二號徵兵免役願ハ村吏ニ於テ輒スシ被上告者カ專斷ニ出テタル戸主換ノ届ヲ信用セシニ成立ヤタルモノナレハ之カ効力

ヲ有セサルモノナリ然ルニ判文第一條ニ右ノ口供ヲ誤謬ナリトスヘキ証憑ヲ舉ケサルノミナラス云々原告〔控訴原告即〕第二號証ハ〔控訴被告即〕カ承諾ノ上家督ヲ讓リタルノ憑據アルモノトシ裁判セラレシハ不當ナリトノ事

第二條

被上告第四號即チ上告者カ寄留換届書ニ喜三郎父ト肩書アルモ固ヨリ實兄弟ノ間柄ナレハ後日紛議ヲ生スヘキヲ顧念セス追テ正誤スル心得ニテ等閑ニ打過キタル情由ナリトス然ルニ判文第二條ニ右肩書アルヲ以テ其隱居ナルヲ疾クニ認了セシモノナリト裁決セラレシハ不當ナリトノ事

第三條

實印ヲ被上告ニ預ケ置キタルハ明治三年以來上告者ハ東京表出稼

致不在中村役場入用ノ節差支ナキ爲メニ相預ケタルモノニシテ
上告者カ戸主相續ノ時養父權太郎ノ承諾ヲ得テ之ヲ讓受タルト同
日ノ論ニアラサレハ被上告ニ於テ讓受ケタルヲテ証明セサル限り
ハ果シテ讓受ケタルモノナリト信用スヘキ道理ナシ然ルニ判文第
三條ニ其實印ヲ所持スルハ同様家督ト俱ニ讓與セシモノナリト認
定セラレシハ不當ナリトノ事

第四條

自己ノ家宅ニ歸來スルハ他人ノ家宅ヲ訪問スルカ如ク其門札ヲ熟
視シ而シテ後ヲ立入ルヘキモノニ非レハ其表札ニ必附カサリシ情
由ナシト謂フ可ラス然ルニ判文第四條ニ其儘マニ差置キシハ畢竟
戸主タルヲ詳諾セシニ因ルモノナリト裁判セラレシハ不當ナリト
ノ事

第五條

初審訴狀ニ掲ケシ勸解附箋中即チ上告者ノ陳述ニ戸主ノ權ヲ與ヘ
タルモノニ非ス是レ該地券面ニ我名義ノ存スル所爲ナリ故ニ被告
〔初審被告控訴〕ノ有シ得ヘキ權ナシ云々トアルノ主意タルヤ果シテ
戸主ノ權ヲ與ヘタルモノナルキハ其財産ノ内幾分歟ノ讓與ヲ求ム
ヘキ道理ナルニ絶テ讓與セシナキハ即チ戸主權ヲ與ヘサルヲテ
証徴スルニ足ルヘシト云ニ過キス更ラコ一歩ヲ進メテ解釋スルキ
ハ仮令戸主權ハ與ヘタルモノトスルモ財産即チ所有地ノ如キハ特
ニ前戸主ノ意見ニ基キ其家督ト同時ニ之カ全部ヲ讓與スル歟若シ
ハ其讓與ノ期ヲ緩ニスルハ唯ダ前戸主ニシテ其地主タル上告者ノ
權内ニ存スルナリト謂フノ論旨ナリ然ルニ判文第五條ニ業已ニ該
地ノ所有權ハ其戸主ニアルヘキヲ自認シタルモノトス原告〔控訴
原告〕

〔即被上告人〕カ戸主ト定マリタル上ハ該地主ノ權ヲモ得タルモノナリト認定スル云々ト裁判セラレシハ不當ナリトノ事

第六條

前條々ニ陳述スル理由ナルカ故ニ判文第七條ニ本訴ノ地券ハ初發預メ置キタルモノナルモ原告〔控訴原告即被上告人〕戸主トナリタル上ハ自然其所有ニ歸シタル旨判決セラレシハ不當ナリトノ事

依テ辨明並ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

夫自由ノ口供ハ自認ノ効ヲ生スルモノナルニ依リ單ニ誤謬ナリト云フノミチヲ以テ輒ク之ヲ取消シ得ヘキモノニ非ス果シテ誤謬ニ出テタルゾラハ必ラニ誤謬タルノ認憑ヲ舉ケサル可ラス且被上告

第三號戸籍簿寫ニ長男吉野喜三郎二男吉野芳太郎ト明記シアルニ照ラセハ愈々前日ノ口供ハ正實ノ口供ニシテ一時ノ誤謬ニ出テカリシコトヲ徵スルヲ得ヘク隨テ芳太郎ハ次男ナルカ故ニ明治七年ハ徵兵適當ノ者ナルモ上告者ノ承諾ヲ經テ被上告カ戸主トナリ芳太郎ヲ以テ其長男トナシタルニ由リ免役セラレシモノナリト認ムヘキモノナレハ則チ上告者カ單ニ誤謬ノ口供ナリトノ申立ヲ採用セズ被上告第二號徵兵免役願ハ承諾ノ上家督ヲ讓リタルノ憑據アルモノト裁判セシハ敢テ不當ノ裁判ニ非スト不然ルニ上告者ハ被上告第二號ハ村吏ニ於テ被上告ノ專斷ニ出テタル戸主換ノ届ヲ信用セシニ成立シタル無効ノ書面ナリト論辨スト雖被上告第一號即チ親類及ヒ上告者ノ養父權太郎等連署ノ証明書被上告第四號寄留替證書及ヒ實印ヲ與ヘタリシ等ニ參考スル時ハ實際相續ヲ讓ルコト

ヲ承諾セシ實証アルモノナルニ依リ右第二號ハ村吏ノ妄信ニ成立
ナリト謂フ能ハサルモノトス

第二條

被上告第四號証書ハ上告者カ最初ノ寄留地ナル淺草三好町一番地
ヨリ明治十一年十月中現在ノ居所ナル住吉町十四番地ニ轉居即チ
寄留換ノ証ナレハ苟クモ其肩書ニシテ誤マリアルコト心附タル時
ハ直チニ正誤ノ手數ヲ盡サ、ル可ラス何トナレハ寄留証ハ公ヤケ
ニ其人ノ身分ヲモ証スヘキモノナレハ其肩書ノ如キハ正實ニ登記
スヘキモノニシテ之カ誤謬アルチ心附キナカラ等閑ニ附シ去ルヘ
キ條理ナケレハナリ然ラハ則チ右自己ノ寄留換証ニ吉野喜三郎父
ト肩書アレハ疾クヨ其隠居ナルコト認了セシモノナリト判定セシ
ハ當然ノ判定ナリトス

第三條

上告者ニ於テ其留守中村役場入用ノ節差支ナキ爲メニ已レノ實印
ヲ預ケ置キタルモノニシテ其相續ヲ讓リタルガ爲メニ讓リ與ヘタ
ルニ非ル旨申立ルモ假リニ其言ノ如ク被上告ハ上告者ノ相續ヲ爲
サスシテ唯ダ不在中家事ノ惣務ヲ委托セラレタルノミナルモ村役
場ノ用向アルニ當リテ被上告ハ其代理者タル廉チ以テ被上告自己
ノ印形ヲ押用スヘキハ當然ニシテ村役場モ亦現ニ其不在ナル上告
者ノ實印ヲ要スヘキ謂ハレナシ之ヲ竟ルニ上告者モ戸主トナリタ
ルノ初メ養父權太郎ヨリ其實印ヲ讓ラレタリト云ヒ現ニ上被告カ
上告者ノ實印ヲ所持スルヲ視レハ曩キニ養父權太郎ヨリ上告者カ
讓受ケタルト同様ノ譯柄ニテ上告者ヨリ被上告ハ相續ヲ讓リタル
ト同時ニ附與シタリシモノト認メサルヲ得ヌ

第四條

自己ノ家宅ニ歸來スルト他ノ家宅ヲ訪問スルトハ自ラ同一視スヘ
カラサル情由ナシト謂フ可ラスト雖モ屢々歸來セシコトニ毫モ其
表札ニ心附カサルノ情由モ亦無之筈ナレハ前各條ニ相關連シテ彼
上告カ戸主タルコトヲ承諾セシ一端ナリト認定セシハ必ラシモ不適
當ノ認定ニ非ヌトス

第五條

上告者カ初審訴狀ニ掲ケタル勸解中ノ陳供云々ノ主意ヲ考ルニ上
告者ノ辨論ノ如ク其家督ト同時ニ其所有地ノ全部ヲ讓與スル歟若
シハ其讓與ノ期ヲ緩コスルハ唯々前戸主ノ權内ニ存スヘシトノ論
旨ナリト解釋スルヲ得ズ抑モ右勸解中ノ陳供ニ戸主ノ權ヲ與ヘ
タル者ニ非ヌ是レ該地券面ニ名義ノ存スル所以ナリ云々ノ語句ヲ

反覆シテ之ヲ約説スレ共固トニ判文説明ノ如ク該地券ノ所有權ハ

其戸主ニ附着スヘキコトヲ自認シタルモノト判斷スヘキノミナラス
初審以來專ラ戸主ヲ讓リタルト否ラサルトテ抗爭セシテ視ルキハ
果シテ所有地ハ戸主ニ附着セタルコトヲ自認セシモノタルコト明白ナ
リトス且夫前數條ノ理由ヲ推シ被上告ハ上告者ノ相續人即チ戸主
タリシモノナル上ハ本訴ノ地券ハ初メ預ケ置キタルモノトスルモ
既ニ其所有權ヲ附與セシモノト看做スヘケレハ則チ判文第五條六
條ハ不當ニアラストス

判決

右ノ如クナルニ依リ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノナリ

第二百二十七號

○判文明治十三年八月十三日上告
明治十三年八月三十日申渡

群馬縣上野國南勢多郡

小神明村六番地平民

上告人

後藤常七

右代言人東京府神田區

中猿樂町三番地寄留長

野縣平民

高梨寬三

群馬縣上野國南勢多郡

小神明村平民

被上告人

奈良三平

貸地取戻ノ一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トスル上告ノ要領ハ左

ノ二項ニアリ

第一

上告第一號論地ノ地券証及ヒ第二號諸帳簿ノ成立ヲ推究スレ
ハ地券取調ノ際地圖並ニ地順番號帳地券一筆限帳等ニ於ル該論
地ハ凡テ奈良字作ノ所有トナルヘキ取調ヘチナシ字作ハ勿論被
上告人モ亦該各種ノ帳簿ニ押印シ群馬縣廳ニ差出シタルニ基因
セリ之レニ由テ之レヲ視レハ被上告人ヨ於テ字作カ左衛門ノ
相續人タルヲハ業既ニ看認メタルモノナリトス然ルチ東京上等
裁判所ニ於テ其成立ヲ詳カニセシテ(原告ノ承諾ヲ經テ)字作
名前ノ地券ヲ得シハ不條理ナリト(言渡サレシハ不當ノ裁判ナリ
トノ事

第二

戸籍帳ハ專ハラ村吏ノ手ニ成立ナタルモノニシテ誤謬ナキヲ保
 ツヘカラス抑字作カ奈良姓ヲ稱シタルハ明治七年十二月ニ非ス
 シテ明治五年十一月中ナルヲ以テ戸籍帳ヲ正誤シタル旨群馬縣
 大書記官岸良俊助ヨリ証言セリ然レハ則チ裁判官ハ其誤マリ
 ルモノヲ攘リケテ改正セシモノヲ採ルヘキハ當然ナルコト東京上
 等裁判所ニ於テハ反テ其誤マリタル戸籍ヲ採ラレ(明治六年六月
 廿以テ下附セラレタル奈良字作名前ノ地券ハ相續以前ニ乞ヒ受
 ケシモノトス)ト言渡サレタルハ不當ノ裁判ナリトノ事

辨明

第一條

上告人ハ上告要領第一項ノ如ク申立ルト雖モ地券取調ノ際地圖並
 ニ地順番號帳地券一筆限帳等ニ被上告人カ押印シタルハ自己ノ所

有ノ地ヲモ該帳ニ併記シアルヲ以テ其自己ノ部分ニ調印ナシタル
 モノニ論地ハ字作カ所有ナリト看認メテ故ラニ論地ノ部分ニ連
 印セシモノニ非サルノミナラス上告人ハ原裁判所へ該各種ノ帳簿
 ヲ差出サス且此事ニ付毫モ陳述スル所アラサリシナリ故ニ該帳簿
 ニ被上告人ノ押印アルヲハ裁判官ニ於テ之ヲ知り得サルハ素ヨリ
 當然ノコトナリトス又上告第二號証ハ明治六年夫錢勘定帳入費取立
 帳畑方地租取立帳等ニシテ奈良字作ノ名前ヲ記シタリト雖モ被上
 告第一號借地証書文中(但小作中御年貢諸役ノ儀ハ私上〔元〕ノコト相
 勤可申候)ト契約シタルカ如ク凡ソ借地人ニ於テ契約上是等ノ事柄
 ヲ負擔スルモノ必ス無シト謂フヘカラス然ラハ則チ上告第一號地
 券証及ヒ第二號奈良字作ノ名前ヲ以テ夫錢等ノ徴収ニ應シタル
 ハ被上告人カ字作ヲ以テ空左衛門ノ相續人ト看認タルヲ証スルコ

足ラストス因テ東京上等裁判所ニ於テ原告ノ承諾ヲ經ス宇作名前
ノ地券ヲ得レハ不條理ナリト旨渡シタルハ不當ノ裁判ニアラスト
ス

第二條

上告人ニ於テ上告要領第二項ノ如ク申立ルト雖凡ソ人ノ分限又
ハ履歴ヲ知ルニハ宜シク戸籍ニ依ツテ之ヲ定ムヘキモノトス例ヘ
ハ質入書入証書ニシテ戸長役場ノ公証帳簿ニ記載ナキモノアラン
ニ地方官ニ於テ其記載ナキハ誤マリナル旨ヲ証言シタル場合ノ如
キ裁判官ハ地方官ノ証言ニヨツテ直チニ適法ノ質入書入証書トナ
スヲ得ヘカラス唯戸長役場ノ公証帳簿ニ記載ナキヲ以テ質入書入
ノ效ナキモノトセソノミ故ニ宇作ノ戸籍ノ如キ奈良姓ヲ稱シタル
ハ明治七年十二月トアルハ誤マリナルヲ以テ其實明治五年十一月

ト改正シタル旨群馬縣大書記官岸良俊助ノ答書アリト雖トモ東京
上等裁判所ハ直チニ之レニ準據スヘカラサルモノトス抑絶家ヲ與
シ又ハ分家合家等ヲ爲スハ固ヨリ容易ニ取扱フヘキ事柄ニアラサ
ルニ付親屬アレハ其親屬又ハ本家分家等協議ヲ遂クヘキハ普通ノ
例慣ナルノミナラス上告人ハ己レカ實子ヲ以テ他ノ絶家ヲ繼カシ
メントスルモノナレハ一層其私シナキヲ表示スルノ處置アルヘキ
筈ナルニ上告人ニ於テハ只ク協議ヲ遂ケタリト供述スルノヨコシ
テ毫モ其形蹟ノ視ルヘキモノナクシテ被上告第二號村吏長岡伊平
治カ群馬縣令ヘ差出シタル取調書ニ九平跡相續之儀ニ付連印致シ
タルモノ一切無御座候トアリ況ンヤ被上告第一號借地証書ハ被上
告カ詐爲セシ証左ナシ依然トシテ被上告ノ手中ニ存在スルニ於テ
チヤ故ニ宇作ハ協議上ノ相續人ニアラストスル上ハ其奈良姓ヲ稱

シタルノ早晚ハ本訴貸地ノ取戻シヲ拒ムヘキ理由ニ關係ナキヲ以テ上等裁判所ニ於テ(明治六年六月ヨリ以テ下附セラレタル奈良宇作名前ノ地券ハ相續以前ニ乞ヒ受ケシモノ云々宇作ハ未ダ正當ノ相續人ト云フ得サルモノ隨テ該地ノ所有權ナキモノトス)ト言渡シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第二百二十八號

○山林境界爭論一件上告ノ判文明治十三年七月廿九日上告

明治十三年九月二日申渡
群馬縣上野國群馬郡三ノ倉村九拾四番地平民

原告

豐田寬吉郎

同縣同國同郡同村百三

十一番地平民

被告

戸塚フサ

東京上等裁判所ノ判文

第一條

初審廳ニ於テハ論所ハ原告ノ所有ニアラスト又被告ノ所有ニモアラスト裁定セラレ則兩造ノ所有ニアラサレハ官有或ハ共有地ト看認ラレシモノナリ然ルニ臨場査檢スルニ論所ハ兩造所有山林ノ間ニ狭リタル二區ノ杉林ナリ而テ麓ヨリ原告若クハ被告所有ノ山林ニ至ルノ道路ハアレモ論所ニ通シタル小徑タニナク且ツ本村役場帳簿ニモ官林或ハ官有共有地等記載アルコトナシ然則原被告ノ中孰レ

ハカ屬ス可キ山林タルヲ未ダ明晰ナリトス
第貳條

原告ニ於テ甲第一號甲第二號証(山林賣買証書)ノ如ク天明年間買取
リシ地ト從來所有ノ地所ニ筆ヲ合シ甲第五號証ノ如ク林貳反歩ノ
地券ヲ受ケタルヲ以テ論地所有ノ証據ト爲スト雖原告所有地論所
ヲ除クモ賣地丈量反別一町七反四畝拾七步アルヲ觀レハ畢竟此等
ノ文書ハ論所カ原告所有地内ナリト云フノ証據ニハ做シ難キモノ
トス

第三條

原告ニ於テ論所ト被告所有地トノ境界ニ貳尺乃至六尺程ノ切落土
塊アルヲ以テ區劃判然タリト申立ルニ付實地檢査スルニ論所乙部
ト被告所有地己部トノ境界ニ於テ凡五六尺許土ヲ欠キ落セシカ如

キ痕迹アレハ原告所有地丙部ト論所乙部トノ境界モ亦同様ノ地景
ニシテ丙部ノ西南論所甲部ニ接スル處ハ地勢稍ヤ夷カナリ而テ論
所甲部ノ南被告所有地丁部ニ接スル所ニモ僅ニ一尺四五寸乃至三
尺程土ヲ切落セシカ如キ蹤跡アリ原告ハ是等ノ地形ヲ指シテ人造
ノ土堤ナリト云フト雖斯ノ如キハ堤ト號シ可キモノニアラス若シ
之ヲ堤ト號ケ地所ノ境界ト爲スルハ論所乙部ト原告所有地丙部ト
ノ界モ同様ノ地形ナレハ何レカ境界ヲ定メ難カル可シ加之現ニ丙
部ノ中央ニ横リ六七尺程土ヲ切落セシ所モアルニ非スヤ仍テ之ヲ
境界ノ証據ト爲スヲ得サルモノトス

第四條

原告ニ於テ論所ト被告所有地間ノ堤ノ上ニ楊楡及茶樹アルヲ以テ
境界ノ証據ナリト申立ルニ付キ之ヲ實地ニ檢スルニ楊楡三拾七株

茶樹廿四株アリ而テ楊楡二株ハ丙部ニ已部ノ境二株ハ乙部ト已部ノ境二株ハ乙部ト戊部ノ境ニ株ハ丙部ト戊部ノ境ニ接スル所ニアリ然レモ乙部ト丙部トノ境界ニモ同樹二株アリ論所乙部中ニモ一株アリ自餘廿六株ハ皆被告所有地丁戊己部ノ叢中ニ散在シアリ又茶樹廿四株ノ甲己部ト丙部トノ間ニ一株乙部ト己部ノ界ニ一株アルノニ他ノ廿二株ハ盡ク被告所有地ノ中ニアリ而テ楊楡ハ一尺乃至四五尺ノ嫩木ニシテ茶樹ハ皆高サ數寸ニ過キス之ヲ雜草中ヨリ檢出スル爲メ數刻ヲ費セシ程ノモノナリ今兩樹ノ矮少ナルト其所在ノ多ク境界ニナキトテ以テ之ヲ推究スルニ山林境界ヲ証スル爲メ植附ケルモノトハ看認カタシ仍テ原告カ此兩樹ヲ以テ境界ノ證據ト爲ストノ申分ハ採用セズ

第五條

原告ニ於テ番外第一號甲第三號甲第四號等ノ帳簿ヲ證據トシテ寬政八年杉三十本文化七年ヨリ杉四十本同百廿本ヲ論所ニ植付ケテ旨申立ルト雖該帳簿ハ自家ノ手扣帳トモ云フ可キモノナレハ被告ニ對スルノ證據ト爲シ難キモノナリ暫ク之ヲ真正ノモノトスルモ寬政八年ヨリ本年迄八十五年文化七年ヨリハ七十一年ナリ然ルニ實地檢査ノ時伐木シテ提供セシ木片ヲ山林局ニ問合セシ所山林局長ヨリノ回報ニヨレハ論所甲部ニアル第三號ノ杉樹ハ九十五年第五號ハ九十二年乙部ニアル第一號ノ杉樹ハ七十四年ヲ經シモノナリト云ヘリ則寬政八年ニ植附ケシモノトスレハ第一號ハ十一年足リス第三號ハ十年第五號ハ七年多シ又文化七年ニ植附ケシモノトスレハ第一號ハ三年第三號ハ廿四年第五號ハ廿一年ノ杉樹ヲ植附ケシモノ、如シ而テ凡ソ杉苗ハ何年成長セシモノヲ植附クル慣

習ナルヤノ問題ハ双方ノ申口符合セサルニ付例チ近キコ寛ルニ原
告所有地辛部ノ杉樹ハ十七年前類焼ノ時老杉チ伐リ跡へ杉苗ヲ植
附ケシ旨原告申立ルニ付尙其年輪ヲ調査スルニ辛部ニ於テ伐木セ
シ番外第一號ハ十七年番外第二號ハ十八年ヲ經シモノト山林局長
ヨリ報道セリ之ニ準據スル時ハ大抵一年若シクハ二年ノ苗ヲ植附
クルモノト推定スルヲ得ヘシ果チ然ラハ原告ノ証據ハ實際ニ違フ
モノニ付其効ナカル可シ況ヤ其誓自家ノ帳簿タルニ於テオヤ

第六條

山林伐木ノ慣習ハ必ラス自己ノ所有地へ向テ伐リ倒スニ由リ古キ
切株ヲ以テ論所境界ノ証據ナリト最初被告ヨリ申立ルニ付實地檢
査セシ所切株ノ形狀ニヨレハ或ハ原告ノ訴意ヲ輔クルカ如キ有様
ナキニモアラスト原告思料セシヤ今ハ却テ之ヲ自己ノ証據ナリト

云ヘリ仍テ之ヲ吟味スルニ若シ假リニ論地ヲ被告ノ所有ト爲セハ
乙部ニ於テ一棟原告所有地へ向テ伐リ倒セシ蹤跡アリ又原告ノ所
有ト假定セハ乙部ニ於テ二棟被告ノ所有地へ向テ切り倒セシ痕迹
アリ其他ノ數株或ハ東ニ或ハ西ニ錯雜シテ一定ノ慣例ナキモノニ
似タリ仍テ此切株ノ形狀ハ以テ兩造境界ノ証據ト爲ス能サルモノ
ト推定セリ

第七條

原告ニ於テ被告カ論所々有ノ証據トスル第二號証ニ字笹平トアル
ハ論地ノ字ニ適セサル旨申立タレハ實地檢査ノ時村役場帳簿ニ照
シ兩造所有ノ原由ヲ調査セシニ原告ノ証據中山畑五畝四步天保十
二年丑二月庄右衛門分トアルニ依リ其買得証書ヲ徵セシ所一旦紛
失セシ旨申立暫クシテ又發見セシ旨ヲ以テ提供ニ來レリ乙號証之

字聞スルニ字笹平トアリ玆ニ到リテ原告カ存スルニ反歩ノ地券中
 ニモ字ツウガ窪ノニナラスシテ字笹平ノ含有シアルコ露顯シ隨テ
 原告ノ論意モ消滅セシモノト思ヒシニ後日ニ到リ証書ニ字笹平山
 畑五畝四歩トアルハツウガ窪ニ於テ三畝歩笹平ニテ二畝四歩合テ
 五畝四歩ノ地所ナリ而テ右証書ニ字笹平トノニ記載セシハ兩字ニ
 跨リタル地所故ナリト抗論セリ然レモ村方役場ノ帳簿ニモ字笹平
 トノニ記載シ証書ニモ亦字笹平トノニアル上ハ原告ノ申供ハ自己
 ノ証據ニ背キ公正ノ文書ニ違フモノナレハ勿論採用スルヲ得ス

第八條

論所ニ於テ原被双方ヨリ賣買或ハ伐木ノ事實ヲ證明スル爲メ數名
 ノ証人ヲ出セシニ由リ每人精細吟味ヲ遂ル處或ハ兩造ノ親戚或ハ
 明文或ハ從來出入スル小民ヨリ各云フ處異同アレハ之ヲ約スル

ニ互ニ差出ル一方ノ訴意ヲ助メトスルモノニ似タリ而テ其証言ハ
 皆據ル可キノ証アルコトヲ只斯クノ如ク記臆セリト云ヒ若クハ
 如此傳聞セシ迄ナリト云フニ過キサレハ共ニ証憑ト爲スニ足ラサ
 ルモノトス

第九條

右第二條以下條々裁示スル如ク原告ハ一モ論所々有ノ証據ヲ有セ
 サルモ大則起訴ノ權利ナキモノトス

第十條

恰モ原告カ地所買得証書等ヲ以テ所有ノ証據ト爲ス如ク被告モ第
 一號第二號第三號ノ地所買得証書及ヒ第四號分米帳等ヲ以テ論所
 々有ノ証據ト申立ルト雖第二條ニ裁示セリト同様ノ理由ナレハ畢
 竟是等ノ文書ヲ以テ論地所有ノ証據ト爲ス能サルモノトス然レモ

實地ニ就テ吟味スルニ論所ニケ所共杉林ニシテ被告ノ所有スル丁
 戊己部モ亦同シ杉林ナリ然リ而テ其間幽ニモ境界ト看認ム可キモ
 ノナシ且原告所有ノ丙部ハ檜林ナレハ樹木ノ種類ヲ以テスレハ是
 判然タル差別ト云フ可シ加之原告所有ノ丙部東南ノ一隅ニ杉樹七
 八十本アリ其杉林ト被告所有己部ノ杉林ニ隣ル所ハ丙部ノ檜林延
 テ帶ノ如ク爭ラ可カラサル境界ヲ表示セリ又被告所有ノ庚部ニ接
 スル原告所有ノ壬部モ杉林ナルニ其間雜木生立テ境界分明ナリ是
 等ノ形狀ニ由ルモ若シ論所原告ノ有ナリセハ焉ソ境界ヲ表スルモ
 ノナカラソヤ由是觀之論所甲乙兩部ト丙部トノ界ハ癸部ト己部ノ
 境界ノ如ク檜林ト杉林ヲ以テ明瞭ナル境界ナリトス即チ論所ニケ
 所トモ被告所有地ノ中ト裁定ス
 但訴訟入費ハ規則ノ通り原告ヨリ被告ヘ償却ス可

大審院ニ於テ

原告豊田寛吉郎上告ノ要領

東京上等裁判所ハ原告所有地丙部東南ノ一隅ニアル杉林ト被告所
 有地己部ノ杉林トノ境界及ヒ被告所有地庚部ト原告所有地壬部ト
 ノ境界ヲ援引シ論所ニケ所ノ境界ヲ檜樹ヲ所有スルノ証ハ數多ア
 リ今之ヲ撮摘スルハ第一甲第一號甲第二號証ハ原告カ論地ヲ買得
 シタル証書ニシテ論所乙部ハ甲第一號証ノ六畝歩内ニ籠リ甲部ハ
 甲第二號証一畝歩内ニ籠レリ第二甲第四號番外第一號証ハ寛政文
 化兩度ニ杉苗ヲ論所甲乙兩部ニ植附タルノ証憑ナリ第三被告所有
 地丁戊己ノ三部ト論所甲乙ノ兩部ノ界ニ切落堤アリテ其境界判然
 タリ第四切落堤ノ上ニ楊樞茶ノ標樹アルハ古來ノ慣例ニ因リ境界
 ヲ徴スル爲メ植附タルモノナリ第五山林伐木ハ自己ノ所有地ニ向

ケ伐倒スハ古來ノ慣習ナリ故ニ論地ニケ所ハ原告ノ所有ナレハコ
 ヲ其他ニ殘存セル切株ハ原告所有地ニ向ケ伐倒シテ第六論地ニ
 ケ所ニ生育スル杉樹ノ木目ト被告所有地ニ生育スル杉樹ノ木目ニ
 徴スルニ論地ノ杉樹ハ被告所有地ノ杉樹ニ比スレハ悉ク古クシテ
 一區ノ杉林ニ非サルヲ明瞭ナリ以上數証ニ據レハ論地ハ原告ノ所
 有ニシテ其境界モ亦判然タルモノナルニ東京上等裁判所ハ該數証
 ナ排斥シ單ニ檜林ト杉林トヲ以テ明瞭ナル境界ナリト判定セラレ
 タレハ不當ノ裁判ト思考ス

右ノ理由ニ付原裁判破毀ノ上至當ノ裁判アランヲ請フ

辨明

本訴訟地ハ上告者ノ所有ニシテ境界モ亦判然ナリト言フ上告者ノ
 要領第一意ヨリ第六意ニ至ル陳述ト各証據書ニ就テ之ヲ審究スル

○論所九部ハ甲第一號證ノ六畝内ニ又甲部ハ甲第二號證一畝歩内ニ
 籠レリト言フト雖モ該地ハ明治五年地券發行ノ際上告者カ從來所
 有ノ地所ト右甲第一二號證二筆ノ地所ト他ニ三畝歩ノ地ヲ合セテ
 貳反歩ト爲シ地券ヲ受領シタリ而シテ本訴ノ起リシヨリ該地所ノ
 實地丈量ヲ受ケタリシニ論所甲乙丙部ヲ除クモ一町七反四畝拾七
 歩ノ多キニ至レハ果シテ論所カ右甲第一號甲第二號證二筆ノ地所
 内ニ籠リタルモノトハ看做シ難シ何トナレハ被上告者モ亦第一號
 第二號第三號證ヲ提供シ論所ノ東部即上告者ノ乙部ハ六畝拾八步
 又西部即上告者ノ甲部ハ一畝七步ト五畝廿八步ノ場所ナレハ論所
 ハ被上告者ノ所有ナリト申争セシニ孰レモ實地丈量ニテ論地ヲ除
 シモ許多ノ反別ヲ打出シテハ論所ハ彼我孰レノ所有地ニ屬スヘ
 キモノナルヲ認視スルニ由ナシトス因テ該甲第一號甲第二號證

ヲ以テ論所ノ所有及ヒ境界ヲ指定スヘキ材料ト爲ヌチ得ヘカラス
 而シテ甲第四號番外第一號証ハ寛政文化兩年度ニ上告者ノ祖先三
 郎右衛門カ論所甲乙兩部ニ杉苗ヲ植付タルノ証憑ナリト提出スレ
 但右ハ自家ノ帳簿ニシテ被上告者カ承認シタル証據ナケレハ以テ
 論所ハ上告者ノ所屬ナリト爲ヌチ得ヘカラス其シ之ヲ真正ノ帳簿
 ナリト假定スルモ原裁判所ニ於テ實地臨檢ノ上該所杉樹ノ切株ヲ
 徵シ内務省山林局ノ調査ヲ經ルニ皆上告者ノ言フ如キ年度ニ符合
 セサルニ於テヤ然レハ之等モ其所屬ヲ指定スルノ材料ト爲ヌヘ
 カラス將テ其他切落堤及ヒ楊楡茶ノ標樹ノアルアリ或ハ山林伐木
 ハ自己所有地ニ向テ伐倒スハ古來ノ慣習ナルニ由リ之レ等モ境界
 ヲ証徴スルニ足ルモノ、如ク陳述スルモ明治十三年四月八日原裁
 判所ニ於テ原被兩造カ調印セシ檢視明細書及製圖ヲ見ルニ茶樹ハ

論所乙部ト己部ノ境ニテ一株其他數株ハ被上告所有地内ニアリ又
 楊楡ハ三拾七株ノ中僅カ七株ハ稍上告者ノ言フ境界線ニ散在シテ
 ル者ノ如クナレバ二株ハ丙部ト乙部ノ界ニアリ又一株ハ乙部即チ
 論所内ニ在リ殘廿六株ハ悉ク被上告者ノ所有地内ニアレハ之レ等
 モ亦境界ヲ指定スルノ証據ト爲ヌチ得ヘカラス況ヤ右兩樹ハ矮少
 ニシテ其所在漸ク叢莽中ニ星散シアルヲ見タリト言フニ於テチヤ
 而シテ切落堤及ヒ伐木ノ蹤跡ノ如キハ上告者ノ申立ト實地檢視ノ
 明細書トチ參照スルニ一モ境界ヲ指定スルノ資料ト看做スヘキモ
 ノアラサルニ由リ原裁判所ハ論所ニ臨檢ノ上自ラ認識シタル實地
 ノ景況ト上告者カ檢視明細書ニ言ヘル丙部東南ノ杉木立ト己部ニ
 アル杉樹トノ中間ハ丙部一体ノ檜樹ニシテ境界判然タリ又壬部ト
 庚部ノ間ハ雜木生立境界明カナリトノ言ヲ採擇シテ其判文第一條

ヨリ第十條ニ推シテ論所甲乙兩部ト西部トノ界ハ癸部ト己部ノ境界ノ如ク檜林ト杉林ヲ以テ明瞭ナル境界ナリ即チ論所ニケ所ハ被告所有地ノ中ナリト裁判シタルハ相當ニシテ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

前條ノ筋合ナルニ由リ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第二二十九號

〇判文明治十三年七月三十一日上告
明治十三年九月六日申渡

栃木縣下野國芳賀郡西

水沼村七拾五番地平民

荒井安平代言人

東京府日本橋區本町三

丁目拾七番地寄留愛知

縣平民

上告人

森條 右衛門

栃木縣下野國芳賀郡西

水沼村九拾三番地平民

被上告人

和久喜十郎

貸金催促一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシ上告シテ破毀ヲ求ムル要領左ノ如シ

第一條

東京上等裁判所判文中原告人上告ニ於テハ云々該金員ヲ借用シタル後原告乙第一號証計算書ニ基キ明治十年十二月十二日ニ至リ原告

乙第二號証ヲ被告^{被上}告人ニ交付シタルヲ以テ云々ト示サレタレモ抑モ
 乙第二號証ヲ被上告者ニ渡シタル事實ハ明治十年三月中本訴ニ被
 上告者カ甲第一號証トスル借用金証書ノ義務ヲ新規証書即チ本訴
 上告者乙第二號証ニ更改ス可キ契約ヲナシ該新規証書ニ當時村役
 場ノ公証ヲモ經タルニ被上告人ニ於テ利子ノ儀ニ付苦情ヲ唱ヘタ
 ルニヨリ一時新証書ノ授受相成ラサリシモ同年即チ十年十二月十
 二日ヨ至リ示談再ヒ整ヒタルヲ以テ右ノ新規証書ヲ被上告人ニ渡
 シ被上告甲第一號トスル借用金証書ノ義務ヲ更改シ了リタルハ勿
 論其他乙第一號証ノ計算ノ如ク上告者カ被上告者ヨリノ借用等ノ
 金員惣計ノ内ニ續テ地所讓渡シタル代金及ヒ被上告人ヨリ可受取
 小作米代金ヲモ三圓六拾錢ト定メ悉ク負債ノ内ニ差入レ猶金三圓
 ノ勘辨ヲ受ケテ成立タル乙第一號証ニシテ其之ヲ被上告人ヨリ受

取タルハ該乙第一號年月日明記ノ通明治十年十二月二十三日ナリ
 然レハ乙第二號証ノ日附ハ乙第一號証ノ日附ヨリ前ニアルカ故ニ
 其日附ノ前ナル乙第二號証カ其日附ノ後ナル乙第一號証ニ基キ云
 々ノ事實アル可キ理ナク上告者ハ右ノ如キ前後ヲ相違シテ申立タ
 ルトナシ然ルニ前顯ノ如ク示サレタルハ其前後ヲ失スルノミナラ
 ス上告人カ伸述スル處ノ事實ヲシテ曖昧糲糊ナラシメラレタル偏
 頗不當ノ判文ト云ハサルヲ得ス何ントナレハ乙第一號証ハ乙第二
 號ヲ被上告人ニ渡サ、ルノ以前決シテ成立ヘキモノニアラサルハ
 前述ノ如ク且ツ其乙第一號証中三口メ金百九拾六圓六拾錢也内金
 百圓証書交替内トアリ其他入金ノ廉ヲ配シテ結局ニ殘金拾圓也不
 足ト明記シアルヲ以テ計算ト証據明白ナレハナリトノ事

第二條

同判文中「抑モ被告」^{被上}告人「甲第一號証」タルヤ戸長ノ與書調印モ有之公正ノ証書ナルヲ以テ他日之レヲ更改スルコト當リテハ云々戸長役場ニ於テ更改証書ニ與書割印ヲ爲シ得ルキ者ニ非ス」トアレモ右ハ原裁判所カ一己ノ相像ニ出テタル判詞ニシテ事實ニ背反スル不當ノ乙第三號証ノ如ク戸長役場ニ於テ明治十年三月中與書割印ナシタルヲ證明スルノミナラス被上告ニ於テモ原裁判所ニ呈シタル答辨書中及ヒ上申書中ニ於テ乙第二號証ハ甲第一號証ト更改ス可キ爲メ明治十年三月中村役場ニ於テ與書割印ナシタル証書ナルコトハ該役場ヨリ承知セシ旨ヲ明言シタリ夫レ如斯原被告及ヒ該役場ニ於テモ其乙第二號証ハ與書割印ナシタル公正ノ証書ナリトシテ供陳總テ符合スルヲ採ラス故テニ原裁判所ハ前顯ノ如ク與書割印ヲ爲

シ得ルキ者ニ非ストナルハ事實ニ反レル判旨ナレハナリ況ンヤ該証ハ右ノ如ク實ニ與書割印ヲ受ケタルノミナラス明治十年十二月十二日ニ於テ被上告者ニ相渡シ其翌年ナル十一年四月ニ至リ上告者ハ其元利金ヲ返濟シテ被上告者ヨリ取戻シタル証書ナリトノ事

第三條

同判文中「原告」ノ親族タル大山五郎次大山芳三郎等ニ於テ云々原告ヨリ被告ニ對シテ保證書差出シタル等ノ實況ヲ推測スレハ被告甲第一號証ヲ原告乙第二號証ニ更改シタルモノトハ難見認トアレモ抑モ區戸長等ニ於テ地所家屋等書入質入証書ニ與書割印ヲナスハ職務上タル勿論ニシテ其與書割印ヲ要スルノ理由ハ其地所家屋等カ義務者ノ所有タルコトヲ保證スルモノニシテ其他妄リニ之ヲ要スルモノ

ニ非サルナリ然リ而シテ乙第二號証ノ如キハ明治十年三月十八日
 ニ於テ與書割印ヲ受ケ其後被上告ニ渡シ翌年ナル明治十一年四月
 ニ至リ該証書ノ義務ヲ尽了シタルヲ以テ之ヲ取戻シ上告者ハ其旨
 ナルハ長役場ニ届出テ與書割印ヲ切斷返付セシモノナルニ今ヤ大山
 五郎次大山芳三郎等カ被上告甲第二號三號証ノ如キ保証書ヲ被上
 告ニ與ヘタルハ職務上ノ事ニアラサルノミナラス自己ノ爲メコエ
 ル處ノアルアリテ與ヘタルモノコシテ
 ニ悖戻スル無効ノ
 保証書ナルヲ明カナリ何ントナレハ前第二條ニ縷陳セシ事實ナル
 ニ若シ乙第二號証ヲ被上告人ニ於テ受領セザリシモノトセハ乙第
 一號証ヲ被上告人カ上告人ニ授與スルノ理由ナケレハナリ且ツ前
 記ノ如ク副戸長ノ職務ヲ以テ云々トノ判文ナレハ是亦決シテ職務
 上ニアラス其故如何トナレハ與書割印ヲナスハ區戸長ノ職務ニ

テ義務者カ其與書割印ヲ要スルハ其權利者ニ渡ス爲メナラスシテ
 妄リニ要スルモノニアラス而シテ其區戸長カ職務上ニ於テ之レヲ
 見ルルハ其與書割印ヲ與ヘタル証書ハ義務者ヨリ權利者ニ必ス授
 與ヒシモノト見做ス可キハ法理上ニテモ道理上ニテモ然ル可キ職
 務上ノ認定ナルモ事實其公証ヲ與エタル証書ヲ授受セシヤ否ヤニ
 至リテハ區戸長ノ職務上ニ毫モ關セサルモノナレハ副戸長ノ職務
 ナリテ甲第二號三號証ヲ被上告人ニ差出スノ理ナケレハナリトノ
 事

第四條

同判文中原告ヨリ明治十一年四月四日ニ被告ニ對シ金百五圓償却
 シタルト云フモ其証ノ見ルルハ無キヲ以テ原告申分採用セスト判
 決セラレタルレ乙第二號証書ヲ被上告人ニ差入タリシコトハ前條カ

陳述スル如ク然リ而シテ其乙第二號証ノ元金百圓ニ利子五圓ヲ加ヘ合シテ金百五圓ヲ被上告人ニ償却シタルヲ以テ始メテ該乙第二號証ヲ上告人ニ取戻シタルモノナルニ依リ其証書カ上告者ノ取戻シタルヲ以テ其金圓ハ既ニ返濟セシテ知ルコト明白ナルニ前掲ノ如ク判決セラレタルハ不當ナリトノ事

第五條

同判文中(原告乙第一號証中ニ金百圓証書交替トアルモ其証書ノ交換ナラザリシ者ナリト云フ被告ノ辨解ハ穩當ナルヲ以テ眞實ト見認メタリトアレハ是レ最モ不當偏頗ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ル何ントナレハ乙第一號証ト乙第二號証ト乙第三號証ノ如ク村役場ノ公証ヲ請ケ以テ其後被上告ヘ相渡シ甲第一號証ノ義務ヲ更改シ因テ乙第一號証ヲ被上告人ヨリ取受ケタルコトハ前條々陳陳セシ如

クニシテ該乙第一號証中(金百圓也証書交替ト明記アルノミナラス尙ホ其末項ニ(殘金拾圓也不足ト明記シアルヲモ証據トセラレヌ單ニ被上告人及ヒ被上告人ニ左袒セシ者等ノ口實トスル處ニ據テ誤認セラレタルノ判決ナレハナリ現ニ乙第一號証ニ(内金百圓也証文交替)又タ(殘金拾圓也不足トアル)ニ據ラスシテ前記ノ如ク裁判セラレタル事況ヲ例フルニ或ル証書ニ相濟ト明記シタルヲ未ダ相濟タルモノニアラストシ又ハ(借用致候トアルヲ借用セサリシト云フノ辨解ヲシテ穩當ナリト見認ムルニ異ナラス且ツ殘金拾圓也トノ明記アルヲ猶ホ百拾圓ノ殘金ナリトスルカ如ク偏頗不當ノ裁判ナリトノ事

辨明

第一條

...

東京上等裁判所ノ判文ヲ熟閱スルニ其初項控訴原告〔即チ上〕カ控訴ノ主旨陳述ヲ記載シタル中ニ原告 控訴原告即チ於テハ云々該金員ヲ借用シタル後原告〔前〕乙第一號証計簿書ニ基キ明治十年十二月十二日ニ至リ原告〔前〕乙第二號証ヲ被告〔控訴被告〕ニ交付シタルヲ以テ云々トアリ然ルニ其乙第一號証計簿書ニ基キ乙第二號証ヲ交付シタルトノ旨意ヲ上告者〔控訴原告〕カ申立タルコトハ本案控訴一件ノ書類中ニ相見ユス然ルニ原裁判所ニ於テ控訴原告カ申立サルコト申立タルカ如ク聞ユルノ記載ハ其陳述ノ意ヲ摘撮スルノ上ニ付テノ疎畧ヲ免レサレトモ此申立ノ有無ニ依テ曲直ヲ分別シタルモノニアラス又其實ニ此申立ノ有無ハ本訴ノ理非ニ毫モ關係スル處ナク到底本案裁決ノ點ニ影響ヲ生ス可キモノニアラサレハ之レヲ以テ本案ノ裁判ヲ不當トスルノ限ニアラストス

第二條

原裁判所カ判文中ニ〔甲〕第一號証タルヤ戸長ノ與書調印モ有之公正ノ証書ナルヲ以テ他日之レヲ更改スルニ當リテハ仮令其受渡人及ビ其書入ノ地所ノ同一ナルモ最初ノ証印ヲ取消サ、レハ戸長役場ニ於テ更改証書ニ與書調印ヲ爲シ得ヘキモノニ非ストアルヲ上告者ハ之ヲ摘撮シテ事實ニ背反スル不當ノ判文ナリト云フト雖モ此判文ノ旨意タルヤ上告者カ原裁判所ニ於テ該詞訟ノ主眼タル甲第一號証ハ已ニ乙第二號証ニ更改シタルモノナリト主張スル點ニ對シテ書入質入ノ公証アル証書ヲ更改シ更ニ又々公証ヲ受クルモノトセハ前ノ公証ヲ取消サ、レハ後ノ公証ヲ爲シ得可カラサルハ其公証ノ本行タル理由ヲ示シ以テ前ノ証書即チ甲第一號証ノ公証ハ取消タルモノト爲シ難クシテ該甲第一號証ハ乙第二號証ニ更改シタル

トノ上告者ノ申立ノ相立タル理ヲ判示シタルニアリテ上告者ノ云フカ如キ單ニ乙第二號証ハ與書割印ヲ爲シタルコトナシトスルノ意義ニアラサルモノトス何ントナレハ右ノ判文ニ連續シテ然ルコト被告甲第一號証ハ依然被告ノ手ニ存在スルノミナラス戸長役場ノ帳簿上モ其儘現存シ且該証書ノ証人ニシテ原告ノ親族タル大山五郎次大山芳三郎等ニ於テ云々被告甲第一號証ヲ原告乙第二號証ニ更改シタル者トハ難見認トアル判文ヲ通讀シテ了解ス可キモノナレハナリ故ニ前顯ノ判文ハ決シテ事實ニ背戾シタルモノニアラス

第三條

戸長役場ニ於テ地所抵當証書ニ公証ヲ爲シタル其公証ノコトニ付副戸長カ職務ヲ以テ該証書ノ權利者又ハ義務者ノ尋問ニ應シ其役場

ノ簿記ト取扱ノ事實ヲ以テ其公証ノ始末手續又ハ其公証ノ與書割印ノ返還ヲ受タルコト等ノ實際ノ保証書ヲ差出シタルハ不適當ノ所爲ニアラザレハ敢テ之レヲ職務上ノ事ニアラストシ或ハ其之レヲ爲スノ理ナシトシ且其証左モナキニ該保証書ハ自己ノ爲メニスル處アルモノト云フカ如キ上告者ノ陳述ハ毫モ相立ツ可キノ理ナキ不當ノ申立ナリトス況ンヤ本訴ニ於テハ前ニ公証ヲ受タル甲第一號証書ハ依然被上告者ノ領置スル處ニシテ是ニ依テ之レヲ視ルモ甲第一號証ノ公証ハ未ダ消滅セサルモノト認定セサルヲ得サレハ從テ乙第二號証ハ甲第一號証ニ替テ被上告者ニ相渡シタルモノトスルノ憑據ナキニ歸シ乃チ甲第二號三號ノ保証書ハ確實ノ保証ト見認メラル、者ナルニ於テヲ故ニ原裁判所カ原告ヨリ被告ニ對スル地所抵當証書ハ交換不相成旨副戸長ノ職務ヲ以テ被告ニ對シ

保証書差出シタル等ノ實況ヲ推測スレハ被告甲第一號証ヲ原告乙第二號証ニ更改シタル者トハ難見認トノ判定ハ相當ノコトナリトス

第四條

上告者カ証トスル乙第二號証書ハ被上告者へ差入タルモノト認定シ難キ理由ハ前條々辨明ノ如クナルニ依リ今其乙第二號証カ上告者ノ所持スルモ被上告者ヨリ取戻シタルモノトハ見認難シ然レハ則上告者カ元利金百五圓ヲ償却シテ乙第二號証ヲ取戻シタルトノ事ハ無証據ノ陳述ニ歸シ到底該金員ヲ償却シタル証憑ナキヲ以テ原裁判所カ(金百五圓償却シタルト云フモ其証ノ見ルヘキ無キヲ以テ原告申分採用セス)ト判決シタルハ不當ニアラサルモノトス

第五條

上告者乙第一號証ニ(金百圓也証書交替)トアリ而シテ其末項ニ(殘金拾圓

也不足)トアルニ原裁判所ハ此明記ヲ證據トセス單ニ被上告者及ヒ被上告者ニ左袒セシ者等ノ口實トスル所ニ據テ判決セラレタルハ不當ナリト云フト雖モ乙第二號証ヲ被上告者ニ差入タルモノト認め難キヲ及ヒ金百五圓ヲ上告者ヨリ返済シテ乙第二號証ヲ取戻シタルモノト認め可キ証左ナキヲ又テ甲第一號証ノ消滅セスシテ依然被上告者ノ領置シアルヲ以テ其乙第二號証ハ甲第一號証ト更改シテ金圓ヲ返済シテ乙第二號証ヲ取戻シタルトノ上告者ノ申立ノ相立難キコト等ハ前條々辨明ノ如クニテ借金ノ始メニ成立タル証書即チ甲第一號証ノ更改相成ヲサリシヲ認定スルニ足レハ乙第一號証ニ証書交替トアルモ又テ不足金ノ記載アルモ該乙第一號証ハ豫定ノコトヲ混シ記シタル計算書ナル可キモノト認定セサルヲ得ス然レハ之ニ適スル被上告者ノ陳述ヲ眞實ナリト認めタル原裁

判所ノ判決ハ不當ニアラサルモノトス

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀ス可キ理由ナ
キモノトス

第二百三十號

○判文明治十三年五月十日
明治十三年九月十一日申渡

石川縣越前國足羽郡福

井水川上町平民朝倉彦

三郎代人

東京府京橋區南橫町七

番地平民

原告

風間信吉

石川縣越前國坂井郡藤

鷺塚村三番地平民

久保庄太郎

預ケ金要求一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ審判
スヘキ旨旨言渡セシ後原告於テ及出訴ニ付遂審理處本訴爭訟ノ要旨ハ
左ノ点ニ外ナラヌトス

一原告於テハ甲第一號証ヲ以テ舊福井藩札四千三百七貫目ヲ被告
先代久保庄右衛門へ預ケ置タルニ該證ハ印形相違シ庄右衛門ノ
差入タルモノニアラヌト被告申立ノト原告甲第十號証庄右衛門ニ
リ日延文通ノ印影ト被告第二號證庄之丞名下ニ押捺シアル印影
ト適合セリ此印影タル曾テ被告ヨリ初審廳へ差出セシ上申書即
チ原告番外第一號證ノ如ク庄右衛門存生中二箇ノ印章相用候ト

記載アルニ因テ看レハ右甲第十號証ノ印影ハ尤庄右衛門ノ押捺
セシコ明瞭ナリ故ニ甲第一號証ノ金額ヲ被告ヨリ返辨請度トノ
事

一被告於テハ原告請求スル原告甲第一號証預リ証書ノ印影亡庄右
衛門ノ印章ト相違シ又原告第十號証ノ文通ハ亡庄右衛門ノ手跡
ニアラサルノヨナラス印章モ亡庄之丞被告第二號証ノ用ヒシ印
章ニ類似セシモノナレハ真正ノ證ト認メ難シ又原告番外第一號
證ニ於ケル久保庄右衛門存生中二個ノ印章相用トアルハ久保家
ニテ二個ノ印章相用フト云フノ主趣ニテ即チ二個相用タル次第
ハ庄右衛門一旦長男庄之丞へ家督相續セシメタルニ庄之丞死失
後再ヒ庄右衛門相續セシメテナリ然レトモ庄右衛門ハ庄右衛
門ノ印ヲ用ヒ庄之丞ハ庄之丞ノ印ヲ用ヒ決テ相互ニ流用セシコ

ナシ依テ原告ノ請求ニハ應ジ難シトノ事一

依テ判決スル左ノ如シ

判決

本訴原告第一號慶應四年辰四月朔日附銀四千三百七貫匁ノ預ケ證
ハ久保庄右衛門ノ印影相違スルノミナラス當時原被告間ニ於テ實
際受授セタルト視認ムヘキ形況ナキニ依リ固ヨリ其効ナキモノト
ス而シテ第十號證末五月十三日附久保庄右衛門ヨリ漆屋彦三郎宛
右銀子催促ニ答タル書翰ニ久保庄之丞ノ印章同一ノモノヲ押捺シ
アルヲ以テ原告ハ番外第一號証ヲ提供シ庄右衛門ハ該印章ヲモ押
捺セシ旨申立ルト雖モ番外第一號証ヲ以テ原告第十號証庄右衛門
名下ニアル印影ハ同人カ自ラ承認セテ押捺セシモノト認メカクシ
トス如何トナレハ番外第一號証初行ノ文意ニ因テ之ヲ看レハ庄右

衛門存生中自身ニ二個ノ印章ヲ用ヰタルモノ、如クナルモ其全体ニ就テ之ヲ視第一項ハ一ノ印章即チ庄右衛門ノ印章ニテ嘉永四年七月中村取極ノ証ノ面々連印致居候トアリテ被告第一號證庄右衛門名下ニアル印章ヲ指示シ第二項ハ二ノ印章即チ庄之丞ノ印章ニテ慶應二年舊福井藩御趣法講通ヒ面押印致シ居候トアリテ被告第二號證庄之丞名下ノ印章ヲ指シタルモノナリ素ヨリ庄右衛門ト庄之丞トノ印章區別シアリテ庄右衛門カ一人コテ二箇ノ印章ヲ押用シタリト明證セシニ非ラサレハ原告第十號證庄右衛門名下ニアル印影ハ庄右衛門カ自ラ承認シテ押捺セシモノトハ看認難キヲ以テナリ依テ原告請求ハ不相立事

但訴訟入費ハ原告ヨリ償却スヘシ

第二百三十一號

○判文 明治十三年七月廿二日上告
 明治十三年九月十一日申渡

岡山縣備中國哲多郡花
 木村八十六番地平民川
 合勘助代言人
 東京府神田區今川小路
 一丁目一番地寄留群馬
 縣士族

上告人 廣 瀬 帆 三

岡山縣備中國哲多郡花
 木村八十九番地平民

被上告人 青 木 與 八 郎

松木山境界差拒區分要求一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ上告

スル主點ハ左ノ如シ

第一項 上告〔原告〕第七號戸長ノ證明書ト被上告〔被告〕第六號戸長ノ證明ト前後相撞着スルニ因リ戸長喚問ノ上審究セラレシコトヲ請願スルモ採用セラレヌシテ一事兩義ニ涉ルヲ以テ信認シ難キ旨判決セラレシハ不當ナリトノ事

第二項 上告第二號〔被告〕第一號〔原告〕證書ニ據レハ從來各自ノ所有ニ不同アルヲ明白ナルコトモ拘ハラヌ各自進退シ來リタル部分ヲ分割所有シ其餘ノ地所ハ原被告ノヨリ分割シ三反七畝貳拾壹步、折半所有セシモノナリト思量スル旨説明セラレシハ右第二號ノ精神ニ背戾シタル説明ナリトノ事

第三項 上告第三號四號證書ニ説明ヲ與ヘサルハ審理不盡ノ裁判ナリトノ事

依テ辨明并ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

第一條

本訴ハ上告〔原告〕第五號則チ被上告〔被告〕第四號證書ニ記載セシ四分六分ノ約定ハ上告者ノ主張スルカ如ク圖面白色ナル乙千六百二十九號ノ一二ノ地ニ止マル歟將チ被上告ノ抗辨セシ如ク乙千六百三十番ノ地ヲモ包括シタル歟ノ論點ヲ判決スルニ在リ而シテ上告第七號及ヒ被上告第六號ハ同一戸長ノ證明ニシテ一事兩義ニ涉リ到底信認スルニ足ラサレハ斯ノ如キ不確實ナル證明ヲ與フル所ノ戸長ヲ審問スルヲ要セサルモ他ノ證書ト供述トニ依據シ本訴ノ論點ヲ判決スルニ妨ケナキカ故ニ戸長ヲ喚問セザリシハ敢テ不當ノ判決ニアラヌトス

抑モ本訴ノ起因ヲ尋ヌレハ上告第一號被上告第二號ノ濟口証文ノ
 契約ニ凡貳町六反三畝貳拾七步ハ云々此度與四郎〔被上告〕〔先代〕チ加都
 合七八入會牛飼付仕銘々凡反別三反七畝貳拾一步宛内譚進退致ス
 ヘシ旨ノ契約ニ基ツキ當時久兵衛等五名ニ於テハ上告第二號被上
 告第一號規定一札ノ如ク從來進退シ來リタル部分ノ儘マ之ヲ所有
 シタルヲ以テ復タ異論ノ生スルコト見ス而シテ本訴ノ兩造ニ於テ
 ハ右凡反別三反七畝貳拾壹步宛分有スヘシトノ汎然タル契約ニ關
 シ右五名ノ分割シテ所有セシ餘地ヲ平分スヘキ筈ナルモ其分割ノ
 境界判然ヲササルニ起因シ其後上告第三號第四號ノ如キ紛議ヲ生
 シ其都度先年幸一郎立入取極メ候境界ヲ以テ與四郎〔被上告〕〔先代〕ヘ可相
 渡立木ハ勘助〔上告〕〔先代〕伐取可申或ヒハ伐本立木モ代價若干ニテ勘助ヘ
 可買受旨ノ濟口約定ヲ爲シ一時ノ紛議ヲ解キタルモ猶ホ最初分割

セシ境界確定セサルカ故ニ明治十年實地丈量ニ際シ最初分割ノ境
 界ニ關シ爭論ヲ起シ到底境界ノ確然セサレハコソ上告第五號被上
 告第四號ノ如ク四分六分ノ約定ヲ成シ始メテ分割ノ境界ヲ定ムヘ
 キ場合ニ立到リタル事實顯然タルノミナラス右約定書ノ冒頭ニ川
 井勘助持論地ノ場所總計反別之内云々トアル上ハ右四分六分ヲ分
 割スルノ約定ハ乙千六百二十九番ノ壹貳ニ止ラスシテ乙千六百三
 十番ノ地ヲモ包括シタル約定ナリト謂ハサルヲ得ス然ルニ上告者
 ニ於テ其第三號四號ヲ援引シ乙千六百廿九番ノ壹貳ノ地ハ伐木ニ
 シテ立木ナキヲ以テ右第五號ノ約定ハ右二筆ノ地ノミチ四分六分ニ
 分割スルノ約定ナル旨辨論スト雖モ其第四號ニ依レハ所謂伐木セ
 シ地所ハ案ヨリ被上告人ノ所有ニ屬セシモノタルヲ明白ナレハ自
 ラ發論シテ殊更ニ自己ノ分界ヲ減殺スルノ情由アル可ラサレハ則

右分割ノ約定ノ亦以テ乙千六百廿九番ノ壹貳及ヒ乙千六百三十番三筆ノ惣計反別ヲ包括セシモノナルヲ確信スルニ足レリトス

第二條

上告第二號ニ據リ權兵衛等五名ノ持地境界ハ多少不同アルヲ徵スヘシトスルモ本訴兩造間ノ約束ハ案ヨリ第一號ヲ以テ凡反別三反七畝貳拾壹步宛内譯進退致スヘク即チ各自平分シテ所有スヘキ旨ノ約定ナルニ因リ當時兩造ノ者共ニ於テ分割セシ境界ノ不同アルヲ徵スルニ由シナケレハ乃チ權兵衛等五名ニ於テハ各自從來進退ニ來リタル部分ヲ所有シ其餘ノ地所即チ本訴ノ論地ハ兩造間ニ在テ之ヲ折半シテ所有セシモノナリト思量スルノ外ナキニ依リ必ラスモ不當ノ説明ニアラストス

第三條

大凡ソ裁判ハ原被兩造カ所争ノ要點ヲ裁判スルニ止マルモノナルカ故ニ其提供セシ證據ニシテ必ラスシモ切要ナル證據ニ非スト認ムルハ一一説明ヲ與フルヲ要セサルノミナラス前條々ニ辨明セシ理由ナルヲ以テ上告第三號四號ヲ援引シテ上告第五號ノ約定ハ乙千六百二十九番ノ壹貳ノミニ止マリ乙千六百三十番ヲ包括セサル約定ナルヲ証徵スルノ効力ナキモノトス

判決

右ノ如クナルニ依リ大阪上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ

第二百三十二號

○判文明治十三年八月廿一日上告
明治十三年九月十一日申渡

神奈川縣相模國鎌倉郡

笛田村平民島村與次右

衛門外五十七名總代

東京府京橋區木挽町

二丁目十二番地寄留

大阪府平民

原告 山下知行

同縣同國同郡同村平民

大塚甚左衛門

島村吉兵衛

神奈川縣相模國鎌倉郡

被告 手廣村

永利妨害一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシテ上告スル要旨左ノ

如シ

第一條

第一項 判文第一條ニ被告カ慣行ニ背キテ堰枕土俵等ヲ築シトノ
 証據ナクトアレハ詞訟ノ証據トシテ提供シ得ヘキモノト提供シ得
 ヘカラサルモノトノ二種アリ本訴堰枕ヲ入換又ハ土俵ヲ積立シ等
 ノ証據ニ至テハ素ヨリ法庭ニ提供シ得ヘカラサル物件ナルニヨリ
 宜ク原被告カ陳述スル所ノ事理ヲ推究セラレ尙原被告ノ口証ヲ疑
 シキト思惟セラル、ニ於テハ實地ニ臨檢シ原被告ノ申供スル所何
 レカ實地ニ適スルヤ否ヤヲ審究セシ上判決ヲ下スコソ審理ヲ盡シ
 タル裁判ト云フヘシ然ルニ上告笛田村ハ控訴應ニ於テ被上告手廣
 村カ舊慣ヲ破リ堰枕ヲ入換ヘ又土俵ヲ積立テ養水ノ流下ヲ堰留メ
 シヨリ上告村内字津村田字六反田字ウツリ等ハ千田トナリ無量ノ

妨害ヲ受ケタル等ノ事實ヲ陳述シ被上告モ明治十三年五月十八日付ノ口供ニ「被告被上告村第一號樋口へ其水ノ半分ヲ引カンガ爲メ堰枕上ニ土俵ヲ積ミテ其水ノ半分ヲ引取リ其半分ハ下へ流シ候但シ其契約書ハ別段ニ無之候へト云々」ト陳述シ舊慣ヲ破リ故ラニ堰枕ヲ入換へ剩へ堰枕ノ上ニ土俵ヲ積ミテ恣ニ引水シタル等自ラ明言セリ是レ實際ノ證據ナルニ原裁判所ハ此ノ證言ヲモ審究セラレヌシテ單ニ上告村ニ證據ナシト判定セラレタルハ審理ヲ盡サ、ル不當ノ裁判ナリトノコト

第二項 同條ニ果シテ原告ガ斯ル妨害ヲ受ケタリシナラハ當初被告へ掛合ヲ遂ケ熟議セサレハ之レガ裁判ヲ仰クヲ得へキ筋合ナルヲ云々原告村ガ先キシテ慣行ヲ背キタルトアレトモ明治十一年六月稻禾植付ノ期ニ際シ被上告カ舊慣即享保度取替證文ノ趣意ヲ破

リ前項ノ如ク流下ヲ堰キ留メテ恣ニ引水セシ故上告村内字津村田等干田ニ變セントスルニ至リ仮令被上告へ對シ堰枕等復舊ノ掛合ヲナシ又ハ裁判ヲ仰クトモ詞訟審理中曠日消費セハ稻禾植付ケノ機ヲ過ツノミナラス登熟ノ障害アルハ必然ナルニヨリ不得止上告村内字大繩下ヨリ引水セサルコトヲ得サル場合ニ立至リ遂ニ本訴ヲ起セシモノナレハ宜ク起訴ノ原因ヲ審究シテ後判定セラレハキ筈ナルニ原裁判所ハ被上告カ引水ノ權限ト如斯擅横ノ所業ヲ爲セシ實事及養水必用ノ時期如何ヲモ推究セスシテ判決セシハ不公平ノ裁判ナリトノコト

第二條

第一項 同判文第二條ニ「内堀川へ合流スル宮ノ上ノ源水ト溜地ノ流水トヲ區別セントスルモ實際上爲スヲ得へカラサル云々」トアレ

上告村内字宮ノ上ノ湧水ハ平時ニ在テハ内堀川ヲ流下スルモ養水引用ノ期ニ至テハ宮ノ上ノ湧水ハ該水源ヨリ直ニ上告村ノ字前津村田ヘ受ケ夫レヨリ字大繩下字長町字宮ケ崎等ノ田場ヘ悉ク引用シ尽ヌテ以テ養水引用期ニ在テハ宮ノ上ノ湧水ハ内堀川ヘ流下スルモノニ非ズ而シテ尙養水不足ナル時ハ豫備養水ナル溜地ノ樋口ニ於テ度ヲ節シテ池水ヲ放流シ(僅ニ二晝夜間ニテ池水流尽ス)之ヲ該田場ヘ注入シテ其不足ヲ補フヲ以テ古來ヨリ養水引養ノ慣行ナリトス如斯豫備ノ養水ヲ引用スヘキ旱天ノ時期ニ及テハ宮ノ上ノ湧水ハ字大繩下等ノ田場ヘ悉ク引用シ盡ヌテ以テ内堀川ヲ流下スル水ハ單ニ池水ノミナリ因之内堀川筋ニ於テハ溜池ヨリ流下スル水ト宮ノ上ヨリ流下スル水ト自ラ區別アルコトハ實際上知り得ヘキモノナルヲ原裁判所ハ養水引用ノ事實ヲ審究セスシテ上文ノ如ク判定セラレシハ審理不盡ノ裁判ナリトノコト

第二項 同條ヨリ且津村田等ノ田地ハ境川ノ以北ニ位シ内堀川ノ水ヲ直受スヘキ田地ニアラス即チ原被共有タル境川ノ水ヲ受クヘキ場所ナレハ該田地ヘ内堀川ノ水ヲ直受セシメントスル原告ノ申分ハ享保度取替證文ノ趣意ニモ戻レルナリ云々トアレヒ養水缺乏ノ期ニ至テ内堀川ヲ流下スル水ハ池水ノ外無之而シテ其水末境川ニ注入シ津村田等ノ用水ニ供スルモノナリ抑境川ト稱スルハ極テ小川細流ナルカ上ニ養水期ニ至レハ笛田橋以東ハ該川ノ流水ヲ常磐笛田兩村ニテ引用スルヲ以テ笛田橋以西ヘ流下スル水量ハ僅少ニシテ毎年用水ニ不足ヲ生シ旱天ノ時期ニ在テハ該川ノ水量殆ント涸竭シテ津村田ハ勿論字六反田字ウタリ等ノ田場ヘ稻禾植付スル能ハサルコトヨリ池水ヲ注入シテ其缺乏ヲ補フコトハ享保度以前ヨ

リノ慣行ニシテ既ニ享保度取替證文ヨリ津村田ト稱來候處境川ノ水引來候場所ニ候ヘモ不足ノ時ハ溜池ノ水モ引取候トアリ又笛田村田場六反田ヲたゞ申處ヘ池水引候節ノ義其外前々仕來候義ハ可爲跡々ノ通ト記載ノ通古來ヨリ溜池ノ水ハ津村田ノ足水ニ用ヒ又六反田ウツアリ等ノ養水ニ引用セシメノ証憑ナルコト瞭然タリ且又上告村ハ初審ハ勿論終審裁判所ニ於テモ享保度取替証ノ明文ニヨリ池水ヲ津村田等ヘ引用スヘキ權利ヲ有スルトノ陳述ハナセシナレモ内堀川ノ流水乃チ上告村カ引用後ノ余水ヲ津村田等ヘ直受セシト申立タルコトハ會テ無之然ルニ前文ノ如ク判定セラレシハ不當ナリトス

辨明

依テ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

第一條

上告要旨第一條第一項ノ如ク申立ルト雖モ該判文ハ上告者繪圖面紀號第一號第十二號樋口ノ堰枕等ハ從前如何ナル形跡ナリシヤノ證據ヲ示サ、レハ現今ノ堰枕等ハ果シテ舊慣ト相違セルヤ否ヤノ見分チ爲スニ由ナキニヨリ被告カ慣行ニ背キタル證據ナント言渡タルモノニテ堰枕等ヲ提出セカリシコト責メタル判旨ニアラス又上告者ハ被上告者明治十三年五月十八日付ノ口供ヲ引テ被告カ舊慣ヲ破リ故ラニ堰枕ヲ入換ヘ剩堰枕ノ上ニ土俵ヲ積ミテ引水シタル實際ヲ明言シタリト云モ該口供ハ堰枕上土俵ヲ積タリト云ニ止マルモノニテ舊慣ニ異ナル堰枕及土俵等ヲ築タリト明言シタルモノト見做シカダキノミナラス明治十三年五月廿八日付ノ被上告口供ニ云々内堀川ノ堰枕ハ即チ古來ノ有形ノ儘ニ有之決テ擅ニ高シ

セシテ無之又兩所土俵ノ義モ從前任來リ通り築立候云々トアルニ
ヨリテ之ヲ見レハ上告者申立ル如ク舊慣ヲ破リ築造シタリト明言
レタルニアラサルコト明ラカナリ仍テ右ノ論旨ハ本案ヲ不法トスル
理由ニハナリカダキモノトス

第二條

同條第二項ノ如ク申立ルト雖モ上告者ハ初審々問中溜池ノ水ハ勝
手ニ引用スルノ權アリト答辨シ控訴ニ至リ初テ被上告者カ舊慣ニ
背キタルニヨリ字大繩下ヨリ引水シタリト申立シモ緊急掛合ヲ爲
スニ暇アラサル等ノ手續ヲ申立タルコトコレナキノミナラス果シテ
緊急ノ場合ナリシトスルモ急訴ノ手續ヲ以テ之レガ出訴ヲ爲サハ
決テ右申立ノ如キ障害ヲ受クルノ道理アルヘカラス然ルニ其手續
ヲ爲サスレテ古來引用セシコトアラサル字大繩下ヨリ引水ヲ爲シタ

ル形迹ニヨリ之ヲ見レハ上告者陳言ノ信スルニ足ラスシテ自ラ慣
行ニ背キタルコト推テ知ルヘキモノナリ仍テ原裁判所カ果シテ斯ル
妨害ヲ受ケタリシナラハ云々原告村カ先ニシテ慣行ヲ背キタリト
言渡シタルハ不公平ノ裁判ニアラストス

第三條

同第二條第一項ノ如ク申立ルト雖モ溜池ノ水ハ享保度証書中其上
足水ノ義ニ候條云々トアル如クニテ畢竟宮ノ上ナル湧水等ノ不足
ヲ補フ趣意ニ出ルモノナレハ其溜池ヲ放流スルハ必ラスシモ宮ノ
上ノ湧水涸渴シテ一滴モ流通セサルモ限ラス苟クモ水不足
ノ年柄ナレハ之ヲ放流スルコトアルヘキハ實理上之ヲ推定シ得ヘキ
モノトス既ニ該湧水ノ一滴モ流通セサルモ限ラス之ヲ放流
スルコトアリトスルモ多少雨水混同スルノ理ニテ到底之ヲ區別シ

得ヘカヲサルモノナルニ依リ原裁判所カ宮ノ上ノ源水ト溜池ノ流
水トチ區別セシトスルモ實際爲ヌヲ得ヘカラスト判決セシハ事理
當然ノ判決ニシテ審理不盡ト云ヘキモノニアラストス

第四條

同條第二項ノ如ク申立ルニ依リ之レヲ審案スルニ津村田以下ノ
田地ハ享保度以前ヨリ溜池ノ水ヲ以テ内堀川境川等ノ欠乏ヲ補イ
タルコト享保度取替証文ノ文意ニ依テ明ラカナリトス然レトモ上告
者於テ獨リ之ヲ自由ニセントスル申分ノ相立難キコトハ享保度証文
ニ境川用水引來候場所其上足水ノ義云々トアル如クコト境川ト斷
モ實際上之レヲ區別シ能ハサル理由ハ前條説明ニ異ナルノ道理ナ
ケレハ字津村田以下ノ田地ニ限り之ヲ別異シテ専用シ得ヘキノ道
理ナキノミナラス其請求ハ正シク享保度証書ノ趣意ニ戻レルモノ

トス又上告者ハ直受云々ノ判語ニ對シ申立ル難アルモ該判語ハ上
告者於テ池水ハ全ク宮ノ上湧水ト異ナルモノコト之ニ限り自由ニ
ナスモ被告ニテ喙ヲ容ルヘキ道理ナレト云ニヨリ之ヲ與ヘタルモ
ノコト其自由ニ使用セントスル申立ハ直受セントスルノ趣意ニ適
スルノミナラスモ津村田等ノ地勢内堀川ノ水ヲ直受スヘキ形勢
ナレハ或ハ其論旨ノ立ツコトアルヘキモ境川以北ニ位シテ享保度定
ノ如ク境川ノ水ト混シ受ル場所ナレハ其申分ハ相立カクセント云ノ
趣意ナリトス左スレハ原裁判所於テ云々該田地ヘ内堀川水ヲ直受
セシメントスル原告申分ハ享保度証文ノ趣意ニ戻レルモノナリト
言渡シタリトテ不當ノ裁判ニアラストス

但右ノ外申立ル條件有リト雖モ枝葉ノ点ナルヲ以テ一々辨明チ
與ヘス

判決

前條ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシト

第三百三十三號

○判文明治十三年四月四日上告
明治十三年九月十三日申渡

愛媛縣讚岐國山田郡木

太村平民上枝安次郎外

十五名總代兼

上枝友次郎

蟻塚五民藏

東京府京橋區尾張町新

地八番地寄留大分縣士

族

右代人

元

田

直

愛媛縣讚岐國香川郡

被告

伏

石

村

掛水差繩一件明治十一年十一月十四日大審院ニ於テ大阪上等裁判所
ノ裁判ヲ破毀シ東京上等裁判所ニ移シタル處猶ホ同上等裁判所ノ裁
判ヲ不當トシ再ヒ上告シテ破毀ヲ求ムル趣意要領ヲ摘載スル左ノ如

第一條

原裁判第一條ニ(原被告ノ証書証言ニ因レハ百數十年前ヨリ現今ニ
至ルマテ被告等(上告)ノ該井水ヲ引用シ來レルコト明瞭ナルニ付佞令
原告等(被上告者)ハ該水源ノ所有者ナリト雖モ被告(上告)ニ妨害アルヲ

願ミテ隨意ニ水路ヲ變更スルヲ得サルモノトス。トアレハ蓋シ百數
十年來ノ慣行ハ互相間ニ黙許默約セシモノナレハ國ノ法律ニ觸ル
カ又ハ非常ノ大事故アルニ非サルヨリハ一方ノ隨意ニ之ヲ變更
セシトスルモ他ノ一方ニ承諾ナキ場合ニ於テハ妨害ノ有無ニ關セ
ス決シテ變更スルヲ得ヘカヲサルヘシ何トナレハ互相間ノ默約ヲ
ル慣行ハ各自遵守スヘキ義務ト遵守セシムヘキ權利ト併有スレ
ハナリ而ルニ前記ノ如ク申渡サレシハ不適當ノ裁判ト思考スルト
ノコト

第二條

又同條ニ(從前被告) [上告] カ償ヲ出セシコトナカリシヲ以テ被告 [上告]
ニ妨害アルヲ願ミス原告等 [被告] ノ隨意ニ水路ヲ變更スル理由ト爲
スヲ得ストアレハ舊高松藩時代ニハ論所鹿ノ井ノ如キ疏鑿修繕等

ハ悉皆官費ニ屬シ而シテ上告者カ之ニ對スル四步米ヲ課出セシ事
實ハ上告第一號及第五號乃至十二號証等ニ瞭然タリ豈償ヲ出セシ
コトナシト謂フヲ得ヤ而ルニ斯ノ如ク申渡サレシハ事實ニ違ヘル
裁判ト思考スルトノコト

第三條

原裁判第二條ニ(底盤分水ノ設ケハ東西兩股ニ流下スル水利ノ平等
ヲ保ツカ爲メニ設ケタル趣キニシテ壅塞セシモノニ非ス)トアレハ
所謂水利ノ平等ヲ保ツトハ何ノ證左ニ據テ言ハシヤ其理由ノ在
ル所ヲモ推究セス徒ニ被上告者ノ偏辭ヲ浮信サレシモノナルヘシ
夫東西兩股ノ水ハ從前畧同一ノ水量ナリシカ被上告者ニ於テ乙第
三號ノ如ク新ニ底盤分水ヲ設置シ西股ヘ七分ノ水ヲ與ヘ東股ヲ三
分ニ減シタルハ固ヨリ偏多偏少ニシテ上告者ノ水利ヲ抑制スルコト

論ヲ待タズ豈平等ヲ保ツト謂フヲ得ンヤ而ルニ前記ノ如ク申渡サ
レシハ審理不尽ノ裁判ト思考スルトノコト

第四條

又同條ニ西股及東股ニ流下スル一派共ニ被告村ニ及フモノナレハ
底盤分木ヲ以テ被告ノ水利ヲ抑制ストシ或ハ甲乙ヲ分別シテ利害
ヲ論スヘキ理由ナシトアレドモ元來木太村ハ高三千石余ノ大村ナル
モ本訴ハ木太ノ全村ニ關係セズ其木太村ノ内ニ在テ專ラ東股ノ末
流ヲ仰ク所ノ字平塚并西原新開高百三拾石ノ人民タル上告者十八
名ヨリ起訴セシモノナリ故ニ其東股ノ水量噸ニ貳分ヲ減シタルニ
付東股ノ末流ノミヲ仰ク上告者ニ於テ妨害ヲ受クヘキノ理由アル
ハ顯然ナリ而ルニ原裁判所ハ上告者ヲ木太村全部ノ人民ト誤認シ
タルカ如ク且本訴ヲ全村ノ利害ニ關スルモノト誤解サレシニ似タ

リ抑上告者ハ木太ノ全村ニアラスシテ僅ニ被害ノ地ニ關スル十八
名ニ止マル事實ハ之ニ關スル豫審ノ判決文ニモ明白ニシテ原裁判
所ノ飽マテ熟知セラレタル義ナリ然ルニ原裁判所カ右ノ木太全村
ニ關スル詞訟ニアラサルヲ熟知シナカラ東西股ノ水利ノ及フ所
ノ區域ヲ辨知セス又此点ニ付テ一應ノ審問モナク突然斯ノ如ク申
渡サレシハ審理ヲ尽クサル鹿漏ノ裁判ト思考スルトノコト

第五條

又同條ニ明治九年分水ノ爲メ旱災ニ罹レルトハ被告^{〔告上者〕}ノ口頭ノ
ミコシテ絶テ憑證ノ見ルヘキナシトアレドモ元來本訴ノ主點ハ被上
告者カ舊慣ニ違ヒ上告者ノ水利ヲ減制シタルヲ以テ起訴セシ者ナ
リ然而シテ其舊慣ナルモノハ原被告間ニ百數十年來相許諾セシ事
柄ニシテ取モ直サス人民相互ノ契約ト看做スヘキモノナレハ其契

約ニ背キ他ノ一方ノ利益ヲ減制スル時ハ單ニ違約ノ廉ノミヲ以テ之ヲ訴ヘ得ルモノヨシテ必シモ其違約ヨリ生セシ損害ノ實數ト證據ヲ續述シテ證明スルヲ要セサルヘシ故ニ上告者ハ初審以來主トシテ被上告者カ舊慣ニ違ヒ水量ヲ限制セシ不條理ヲ訴ヘ〔第一〕次ニ上告者ノ之カ爲メ損害ヲ被レル事實〔第二〕ニモ言ヒ及ホセシ迄ニシテ其水量ノ減セシヨリ起レル損害ノ確證ヲハ呈供セサリシナリ而ルニ原裁判所ハ舊慣ノ如何ニ關セズ徒ニ損害ノ證ヲ必要トセラレ前記ノ申渡ニ及ハレシハ條理ニ適セサル裁判ト思考スルトノト

辨明

第一條

上告要領第一條ニ相互ノ間ニ默許默約セシ百數十年來ノ慣行ハ一方ノ隨意ニ之ヲ變更セシトスルモ他ノ一方ノ承諾ナキ場合ニ於テ

ハ妨害ノ有無ニ關セズ之ヲ變更スルヲ得サル旨申立ルト雖モ被上告者ハ水源ノ所有者ニシテ上告者ハ水源ノ共有者ニアラス右ノ百數十年來ノ慣行ナルモノハ唯其流末ノ水ヲ使用スルノ慣行ナルノニ故ニ其末流ヲ使用スル上告者ニ損害ナケレハ水源ノ所有者タル被上告者カ其水ヲ利用スルニ底盤分木等ヲ以テスルモ上告者ハ之ヲ妨クルノ權利ナキモノトス何トナレハ被上告者カ農業ノ利益ヲ計リ末流ヲ使用スル上告者ニ妨害ヲ爲サ、ルマテノ水量ヲ利用スルニ東西兩股ノ水量ヲ適宜ニスルハ水源所有者カ固有ノ權利ナルノ理ナレハナリ故ニ原裁判所カ被上告者等ハ水源ノ所有者ナリト雖モ上告者ニ妨害アルヲ顧ミス隨意ニ水路ヲ變更スルヲ得サルトノ旨意ヲ判示シタルハ相當ノコナリトス

第二條

上告要領第二條ニ原裁判所カ上告者ヨリ償ヲ出セシメナカリシ旨
ノ裁判ヲ下シタルハ事實ニ違ヘル旨申立ルト雖モ上告者ハ水源ノ
所有者ニ對シ流水使用ニ付テノ償ヲ出シタルコトナシ而シテ假令四
分米ナルモノヲ課出シタルモ此レハ當時官廳ノ賦課方法ニ依テ出
米シタルモノニテ之ヲ以テ特ニ水源所有者ニ對スル償ト云フヲ得
ズ故ニ原裁判ハ事實ニ違フタル裁判ニアラストス

第三條

上告要領第三條ニ被上告者カ新ニ底盤分木ヲ設ケ西股へ七分ノ水
ヲ與へ東股ヲ三分ニ減シタルハ固ヨリ偏多偏少ニシテ上告者ノ水
利ヲ抑制スルコト論ヲ待タサレハ水利ノ平等ヲ保ツト謂フヘカサ
ル旨申立ルト雖モ若シ被上告者カ水路ヲ壅塞シテ上告者カ舊來灌
漑ヲ要スル土地ニ水ノ流下スルヲ妨ケ由テ其地ヲ舊來ノ如ク耕作

シ難キカ又ハ著シキ損害ヲ蒙ラシムルカ如キ處置ハ被上告者ニ於
テ爲シ能ハサル處ナレトモ抑被上告者カ底盤分木ヲ設ケタルノ主旨
ハ該東西兩股ノ水路ニ依テ灌漑スル其水源所有者等ノ田地ノ多少
等ニ準カヒ水利ノ便否ヲ量リ其水ノ利用ニ付テノ平等ヲ保ツカ爲
メ設ケタル趣旨ニシテ單ニ東西兩股ニ分流スル水量ノ平均ヲ保ツ
カ爲メニ設ケタル主旨ニアラス然リ而シテ該底盤分木ノ爲メ假令
水量ニ七分ト三分ノ差異ヲ生スルモ爾後上告者ニ於テ之カ爲メ現
ニ損害ヲ蒙リタルノ證據ヲ舉ケサルヲ見レハ上告者ニ於テハ爲メ
ニ損害ヲ蒙リタルコトナキモノト認定セサルヲ得ス果シテ然ラハ前
第一條ニ辨明セシ理由ナルニ因リ上告者ハ其水源ノ所有者タル被
上告者ニ對シ水利ノ平等ヲ保ツカ爲メ設ケタル底盤分木ヲ取除カ
シムルノ要求ヲ爲スヘキ權利ヲ有セサルモノトス故ニ原裁判所カ

底盤分木ノ設ケハ東西兩股ニ流下スル水利ノ平等ヲ保ツカ爲メニ
設ケタル趣キヨシテ壅塞セシモノニ非スト判定シタルハ相當ノ裁
判ナリトス

第四條

上告要領第四條ニ原裁判所カ(西股及東股ニ流下スル一派共ニ被告
〔木太村ニ及フモノナレハ云々甲乙ヲ分別シテ利害ヲ論スヘキ理由
ナシ〕ト判決シタルハ審理ヲ盡クサ、ル粗漏ノ裁判ナル旨申立ルニ
依リ此ヲ繪圖面其他ノ書類ニ照シテ推究スルニ本訴ハ木太ノ全村
ニ關セズ其村内ニ在ル一部ノ地ニ關スルニ止マルモノニシテ西股
ニ流下スル水ハ仮令木太村ニ及フモ該水カ果シテ其木太村ノ部内
ニ在テ上告者カ所有スル字平塚并ニ西原新開ノ内高百三拾石ノ田
面即チ本訴ノ關スル地所ニ及フヤ否ヤハ之ヲ審糺スルニアラサレ

ハ未ダ知ルヘカラサルモノナリ然ルニ原裁判所ハ其審糺ヲ爲サス
シテ其水ノ木太村ニ及フト云フノミヲ以テ直チニ上告者カ所有ス
ル平塚并ニ西原新開ノ内ナル高百三拾石ノ田面即チ本訴ノ關スル
地所ニモ及フモノ、如ク認定シタルハ審理ヲ盡クサ、ル不當ノ判定
ナリトス然リト雖モ假令ヒ西股ニ流下スル水ハ平塚并ニ西原新開
ノ内ナル高百三拾石ノ田面ニ及ハサルモノトスルモ前第一條第三
條ニ辨明セシ如ク被上告者カ底盤分木ヲ設ケタルカ爲メ上告者ニ
著シキ損害ヲ蒙ラシメタル証跡ノ見ルヘキナケレハ西股ノ水ノ平
塚并ニ西原新開ノ内ナル高百三拾石ノ田面即チ本訴ノ關スル地所
ニ及フト及ハサルトニ關セス被上告者ニ對シ該底盤分木ヲ取拂フ
ヘキ要求ヲ爲スノ權利ナキニ因リ該判定ノ不當ナルモ到底本案ノ
主點ニ影響ヲ生セサルモノナレハ此ヲ以テ原裁判ヲ破毀スルノ限

リヨ在ラス

第五條

上告要領第五條ニ原裁判所ハ舊慣ノ如何ニ關セス徒ニ損害ノ証ヲ必要トセラレタルハ條理ニ適セサル裁判ナル旨申立ルト雖モ本訴ノ如キハ上告者ニ於テ被上告者カ水利ヲ變更シタルノミノ廉ヲ以テ訴ニ得ルモノコアラヌシテ之カ爲メ損害ヲ蒙リタルノ證據アルヲ要スルノ理由及ヒ上告者カ其損害ヲ蒙リタルノ証跡ナキハ前第一條第三條ニ辨明シタルカ如クナルニ因リ原裁判所カ其損害ヲ蒙リタルノ證據ヲ必要ト爲シ而シテ判文第二條ニ(明治九年分水ノ爲メ旱災ニ罹レルトハ被告上告村ノ口頭ノミニシテ絶テ憑証ヲ見ルハキナシ)ト判定シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

前條々ノ理由ニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘカラサルモノトス

第二百三十四號

○買附耕地不渡一件大阪上等裁判所ノ裁判不法上告ノ判文
 明治十三年八月十二日上告明治十三年九月十三日申渡

兵庫縣但馬國出石郡小
 人町士族宮崎藤内外一
 名代言人

東京府神田區美土代町
 二丁目一番地寄留愛媛
 縣士族

上告人 河村 詔

兵庫縣但馬國出石郡森
尾村平民亡源作相續人

被上告人 平尾 在 正

大坂上等裁判所ノ判文

被告於テハ第一號証ノ如ク代價千三百圓ニテ爭論ノ地所ヲ原告ヨリ買得ノ契約ヲナシ第二號証ノ通り地券書換等ノ手数料トシテ右代價ノ内ヨリ五拾五圓ヲ引落シ尙ホ地所ノ等位ニハ其價格適當ナルヲ以テ其年該地ヨリ生ル小作米ヲモ被告へ受取ルヘキ約定ヲナシ第三號小作米取立方委任狀ヲ受領セリ尤モ契約期限前ニ係ルヲ以テ原告第二號証ノ通小作米代ニ當テ貳百圓ノ預リ証ヲ差入レタレト遂ニ小作米ハ受取ラサリキ依テ右ノ廉々ヲ合テ三百五拾五圓ヲ全額中ヨリ引去リ残り九百四拾五圓ヲ相整ヘ契約履行ヲ求ムレ

原告之ニ應セザレバ第六號乃至第九號証并ニ豊岡區裁判所へ呈供シタル手續書等ヲ提携シ種々辨論ヲナセト原告於テハ違約シタル覺更ニ無之ト被告カ云フ原告第二號証小作米云々ハ地所賣買契約ノ節該地ニ屬スル其年ノ小作米ヲモ一同買受度トノ需メニ應シ別途之ヲ賣却セリ然ルヲ被告ハ之ヲ該契約ニ混合シ千三百圓ノ内ニ含蓄スル趣ニ申立テ全額引渡サ、ルニ付被告ノ違約ヲレモ只契約ノ解除ヲ求ル而已ニテ内入金ハ現ニ手数ノ費用ナキヲ以テ返却スヘシト申立依テ其被告カ小作米ヲ地代價千三百圓ノ内ニ買得シタリト云フ事實ヲ審問スルニ多少ノ申述アルモ總テ口頭ニ止リ他ニ証憑ナケレハ果シテ契約セシモノトハ難認然レハ小作米代貳百圓ヲ千三百圓ノ内ヨリ引落シ地所ノ引渡ヲ求ムルハ不當ニ付原告ノ之ヲ承諾セサルヤ素ヨリ當然ノコトナリ況ヤ被告第一號証タルヤ

若シ原告ヲ違約トスルモ其明文ニヨリ内入金壹倍ノ金額ヲ請求スルニ止リ是非賣買ノ本旨ヲ履行セシムヘキ權利ヲ存セサルニ於テ

判決

右ノ理由ニ依リ被告於テ原告ニ係リ地所引渡シテ求ムヘキ權利無之ニ付内入金百圓ヲ請取リ該契約ヲ解除スヘキモノトス
但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告ヨリ償却スヘシ
明治十三年五月二十六日
大審院ニ於テ

上告代言人河村訥上告ノ要旨

第一條

終審判文中ニ被告カ小作米ヲ地代價千三百圓ノ内ニテ買得シタリト云フ事實ヲ審問スルニ多少ノ申述アルモ總テ口頭ニ止リ他ニ証

憑ナケレハ果シテ契約セシモノトハ難認トアリトモ抑被上告〔控訴原告〕

第二號預金証書但書ニ記載シタル小作米ハ上告并被上告トモ第一號トスル証書ノ地代金千三百圓ノ内ニテ買受タル者ナルコトハ上告第三號証即チ被上告ヨリ明治十一年十二月廿四日附ニテ上告人ハ相渡セシ委任狀ニ依テ推知スルヲ得ヘシ如何トナシハ被上告人カ右委任狀ヲ上告人ニ渡シタルハ上告并ニ被上告第一號証即チ耕地賣買ノ契約書ヲ取替セタルト同日ニシテ被上告第二號証ヲ渡シタルモ亦之ト同日ナリ而テ上告并被上告第一號証賣買ノ約定ヲ踐行ナルノ期ハ明治十二年二月限リナシハ明治十一年分ノ小作米ハ尙被上告人ノ自ラ徴收スルコトヲ得ヘキモノナルニ被上告人ハ之ヲ徴收セス其地所賣渡ノ証書ト同時ニ上告第三號証ヲ相渡シ十一年分ノ小作米受取方ヲ上告人ニ委任シタルヲ以テ見シハ被上告第二號

証ノ預リ金ハ地代價千三百圓ノ内ニ包含セラルモノナリ判然タ
 レハナリ若シ否ラヌシテ該被上告第二號証ノ預金ヲ別途ノモノナ
 リトスルハ上告第三號証即委任狀ハ必ズ別ニ之ヲ委任シタルノ
 事由ヲ證明セサルヘカラス然ルニ被上告人ハ上告第三號証ヲ上告
 人へ渡シタルニ付他ニ相當ノ事由アリシコトハ更ニ之ヲ證明セス然
 リ而シテ該小作米ハ別途ノモノニアラスシテ上告人ノ之ヲ受取ラ
 サルヘカラサル所以ハ凡ソ土地ヲ賣買スルニ別段ノ契約ナキハ
 現ニ其土地ニ生スル利益モ併セテ之ヲ賣買セタル者トナスハ當然
 ナリ然レトモ本訴賣買スル耕地ハ明治十二年二月限リナラテハ其
 所有ノ權上告人ニ移轉セサルニヨリ明治十一年分ノ小作米ハ未ダ
 上告人ヨリ直ニ從來ノ小作人へ對シ之ヲ徵收スルノ權利ナキヲ以
 テ斯ク被上告人ヨリ委任狀ヲ受取リ置タルナリ又被上告第二號証

ハ本訴地代金千三百圓中ニ包含シテ賣買シタル小作米ニ對シ一時
 現金ニ換ヘ千三百圓ノ内入金トシテ之ヲ渡シ置タルナリ然ルニ前
 ニ掲クル如ク裁定サレシハ不當ノ裁判ナリト思考ス

第二條

同判文中ニ小作米代金貳百圓ヲ千三百圓ノ内ヨリ引落シ地所ノ引
 渡ヲ求ムルハ不當ニ付原告之ヲ承諾セサルヤ素ヨリ當然ノコトナ
 トアレヒ元來被上告第二號証小作米代貳百圓ヲ上告人カ被上告人
 へ渡スヘキ地代金ノ總額千三百圓ノ内ヨリ引去ルヲ得ルハ已ニ前
 條ニ開申スル如クニテ小作米ハ別途ニ之ヲ被上告人ヨリ上告人
 へ買取ルヘキノ約定ニアラス實ニ其別途ニ小作米ヲ賣買シタルナ
 ラハ其約定書無カル可カラス然ルニ之レカ約定書ト看認ムヘキモ
 ノナク只被上告第二號証ノ但書ニ「但丹波國作德米代當」トアルモ

該証ノ性質ハ作徳米ヲ目的トシテ金貳百圓ヲ預リタルマテノ証書
 ニシテ決シテ之ヲ以テ直チニ小作米賣買ノ約定書ト看認ムルヲ得
 サルモノナリ然リ而シテ小作米モ地所ト并ニ買取リタルモノニテ則
 チ地代金千三百圓ノ内ニ包含スルモノナリ然ルニ被上告人ハ上告
 第三號証ヲ以テ小作米受取リ方ノ事ヲ上告人ニ委託シ且被上告第
 二號証ノ如ク地代金總額ノ内特ニ小作米ニ對シ内入金ト同視スヘ
 キ預金証券マテ受領シナカラ被上告人ニ於テ擅ニ其小作米ハ悉皆
 小作人ヨリ徴收シ上告人ヲシテ之ヲ得ルヲ能ハサラシメタルニヨ
 リ被上告第二號証ノ預リ金貳百圓ハ上告人ニ於テ地代金千三百圓
 ノ内ヨリ引去ルヘキハ當然ナリ且被上告人於テモ千三百圓ノ内ヨ
 リ小作米代貳百圓ト入金百圓ヲ引去リ殘金千圓ヲ渡セハ満足シテ
 之ヲ受取ルノ本意ナリシトハ被上告ヨリ第三號証トシテ提出シタ

ル豐岡區裁判所ノ勸解表ニ記載シタル地所代金ノ計算ヲ以テ明瞭
 ナリ何トナレハ若シ被上告人ハ此計算ニ異議アラハ當時上告人カ右
 ノ被上告第三號証ノ如ク計算ヲ立テ地所引渡ノ勸解願出タル節何
 等故障ヲ述ラヘキ筈ナルニ被上告代人田中梅造於テ即日下方ニ
 テ取引スヘキ旨申立タルハ全ク上告人カ勸解ノ願旨ヲ承認シタル
 モノナルコト判然タレハナリ如此被上告人ハ一旦上告人ノ計算ヲ承
 諾シ置ナカラ其後控訴ヲナスニ及ンテ小作米ハ別途ニ賣買ノ約定
 ヲ爲シタルモノニ付小作米代貳百圓ハ千三百圓ノ内ヨリ引去ルヘ
 キモノニ非サル旨主張スレトモ右ハ勸解ノ節ノ承認ニ翻異シ信用
 スヘカラサルノ申供ナリ然ルニ前ニ掲クル判文ノ如ク判決サレシ
 ハ不當ノ裁判ナリト思考ス
 又仮リニ右小作米ハ地代金千三百圓ノ外別途ニ賣買ヲ約シタル者

トヌルモ其小作米ハ實際前項ニ開申スル如ク上告第三號証被上告第二號証ニ違約シテ被上告者自己ニ之ヲ收入シタル上ハ上告人ハ被上告人へ對シ目的ナク被上告第二號証金貳百圓ノ預リ証書ヲ相渡シタル事トナリ而シテ其預リ証書ハ何時被上告ヨリ請求セラル、モ料ラレサルノ約定ナルヲ以テ未タ被上告ノ手ニ該預リ証書ヲ掌握シテ之ヲ上告人へ返付セサル内ハ上告人ヨリ被上告へ上告被上告第一號証ノ地代金ヲ償却スルニ當リ被上告第二號証ノ金貳百圓ハ是迄上告人ノ手へ現金受領シ無之ニ付後日被上告ヨリ該預リ証書ヲ以テ預ケ金ヲ請求セラル、節ノ返資ニ引去リ之ヲ準備シ置シモ敢テ不當ノ計算ニアラスト思考ス否ラサレハ後日上告人ハ被上告ヨリ其第二號証ニ依テ預ケ金貳百圓ヲ請求セラル、節全ク未タ上告人ノ受領セサル金額ヲ返償セサルヲ得サル無實ノ義務ヲ負擔ス

ルニ至ラン故ニ之ヲ上告人カ地代金額ノ内ヨリ引去リ計算ヲ立テリトテ登之ヲ不當ト謂フヲ得ンヤ

第三條

同判文中ニ(況ンヤ被上告第一號証タルヤ若原告ヲ違約トスルモ其明文ヨヨリ云々是非賣買ノ本旨ヲ履行セシムヘキ權利ヲ有セサルニ於テヲヤ)トアレモ抑上告第一號証中ニ尤モ拙者ヨリ違約致シ候節ハ該入金ハ勿論違約ノ廢ヲ以テ該入金ニ百圓相添御返濟可仕候トアルハ被上告人ヨリ万不得止事情アリテ解約スルハ踐行スヘキ第二ノ約定ヨシテ本訴ノ如ク上告人ハ賣買ヲ結了セント請求シ之レニ對スルニ被上告人ハ上告人ヲ以テ違約者トナシ賣買ノ契約ヲ解除セント主張スル場合ニハ右ノ第二ノ約定ハ關係ヲ有スヘキモノニアラス如ク本訴爭論ノ點ニハ無用ニ屬シ且ツ爭訟者双方

の爭論セサル右ノ第二ノ約定ニ付キ判決ヲ與ヘラレシハ不法ノ一部ナリト思考ス

第四條

同判文中ニ被告於テ原告ニ係リ地所引渡シヲ求ムヘキ權利無之ニ付内入金百圓ヲ受取リ該契約ヲ解除スヘキモノトスレトモ本訴賣買ノ違約ハ既ニ前條々開陳スル如ク上告人カ上告第一號証ノ入金百圓ト被上告第二號証ノ貳百圓ヲ買地代金千三百圓ノ内ヨリ引去殘金千圓〔上告第二號証ノ五拾五圓モ引去ルヘキ者ナレトモ上告人カ明治十二年二月廿七日勸解出願ノ節誤テ之ヲ引去ラサリシヨリ〕ヲ準備シ被上告人ヘ對シ地所引渡ヲ督促シタルニ被上告人ノ之ニ應セサリシモノナルニヨリ其違約ハ全ク被上告人ニ在リテ決シテ上告人ヨリ違約シタルニ非ス然ハ上告人ハ被上告人ヘ對シ上告第一號証賣買契約ノ履行ヲ訟求スルノ權利アルハ勿

論ナリ然ルニ結局前記ノ如ク判決サレシハ全ク違約者ヲ誤認セラレタル不當ノ裁判ナリト思考ス

辨明

第一條

上告人於テ被上告〔控訴原告〕第二號証預リ金証書ノ但書ニ記載シアル小作米ハ上告並ニ被上告トモ第一號トスル証書ノ地代金千三百圓ノ内ニテ買受ケタルモノナルコトハ右第一號第二號ノ証書ノ日附ト上告第三號証即被上告人ヨリ上告人ヘ相渡シアル委任狀ノ日附ト同日ナルニ依テ推知スルヲ得ヘキ者ナリト云フト雖モ該委任狀ナルモノハ唯被上告人カ其所有地ヨリ收入スヘキ明治十一年分ノ小作米受取方ヲ上告人ヘ委任シタル迄ノ証ニシテ其第一號第二號証ト同日附ナルモ小作米ヲ地代金千三百圓ノ内ニ包含シテ賣渡シタル

由リ該委任狀ヲ渡シタルモノト推知シ得可キモノニアラス而シテ
 第一號証中ニ小作米地代金千三百圓ノ内ニ包含シテ賣渡シタル
 ノ記載ナキノミナラス却テ別段ニ右ノ委任狀ニ對スヘキ被上告第
 二號証即上告人ヨリ被上告人ヘ差入タル小作米代金預リ証書ノ在
 ルアレハ其他ニ小作米ヲ地代金ノ内ニテ買受ケタルノ明証アラサ
 ル限リハ唯タ是レ其同日ニ地所ト小作米トヲ別途ニ賣買シタルモ
 ノト見認ム可キ証左ノ明カナルモノトス
 右ノ如ク別途ニ小作米ヲ賣渡シタルトハ被上告第二號証ノアルニ
 依テ白明ナレハ上告第三號証小作米取立ノ委任狀ハ上告第二號証
 ノ事由ヨリ付テ授受シタルモノト認定セサルヲ得サルモノナルカ故
 ニ特ニ小作米取立ノ委任狀爲シタル事由ノ証明ヲ被上告人ニ要ム
 ルノ理ナシ而シテ上告人ハ別段ノ契約ナキ時ハ現ニ其土地ニ生スル

利益モ併セテ之ヲ賣買シタルモノトナスハ當然ナリ云々ト陳述ス
 レル土地ノ所有權移轉ノ日ヨリ其土地ニ生スル利益ハ共ニ買主ノ
 有トナルハ當然ナレハ其ノ別段ノ契約ナシシテ土地ノ所有ヲ移轉
 セサル前ニ其土地ニ生セシ利益ヲ特ニ地所買主ノ有トスヘキ理ア
 ランヤ故ニ小作米取立ノ委任ハ該小作米ヲ地所代金ノ内ニ包含シ
 買取タルニ由ルモノトハ認定シ難キモノトス又上告人ハ本訴地所
 代金千三百圓ノ内入金トシテ一時現金ニ換ヘ被上告第二號証ヲ相
 渡シ置キタル旨申立ツレバ若シ果シテ之ヲ内入金トシテ差入タル
 モノナレハ必其事由ヲ明記スヘキ筈ナルニ該証書ニハ毫モ地所代
 金ノ内入金タル廉ノ見ルヘキナクシテ却テ其但書ニ(但シ丹波國作
 德米代當)ト明記シアレハ到底上告第三號証委任狀ニ記載シタル明
 治十一年分ノ小作米ハ地代金千三百圓ノ内ニテ買受ケタルモノト

ハ推知スルニ由ナキニ依リ大阪上等裁判所カ小作米ハ地代金ノ内ニ包含シテ賣買シタルモノトハ認メ難シト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第二條

上告人於テ本訴小作米ハ地所代金千三百圓ノ内ニ包含セシテ別途ニ賣買シタルモノナレハ其約定書ナカルヘカラス然ルニ之レカ約定書ト看認ムヘキモノナシ且被上告第二號証ノ但書ニ但丹波國作徳米代當トアルモ該證ノ性質ハ作徳米ヲ目的トシテ金貳百圓ヲ預リタル迄ノ證書コシテ決シテ之ヲ以テ直チニ小作米賣買ノ約定書ト看認ムルヲ得サルヲ以テ該第二號証小作米代金二百圓ハ上告人ヨリ被上告人ヘ渡スヘキ地代金ノ總額千三百圓ノ内ヨリ引去ルヲ得ヘキモノナル旨申立ツルト雖モ小作米ハ地所代金ノ内ニ包含

シテ賣買シタルモノトスルヲ得サルコトハ前條ニ辨明スル如シ然リ而シテ現ニ上告人ハ被上告第二號預リ金證書ヲ被上告人ヘ相渡シ被上告人ハ上告第三號証委任狀ヲ上告人ヘ差入レアリテ該委任狀ニ記載シアル小作米ハ即預リ金證書ノ但書ニ掲記シタル作徳米ヲ指シタルモノナル上ハ別ニ小作米賣買ノ約定書ノアラサルモ右ノ被上告第二號証ハ小作米ノ賣買ノ約定ヲ成セシ證據ハ端緒ニシテ是ニ據テ小作米ヲ別途ニ賣買スルノ約定ヲ成シタルモノト認ムル證左トスルニ充分ノ効力アルモノナリ如此小作米ノ賣買ハ地所賣買ト別途ナル上ハ其小作米代金タル被上告第二號証ノ金貳百圓ハ地所代金ノ内ヨリ引去ルヘキノ條理ナキモノトス何トナレハ小作米代金ナルモノハ預リ金證書即チ被上告第二號証ヲ上告人ヨリ相渡シ置キタルモノコト上告人ニ於テ到底其小作米ヲ受取リ得サルニ

至レハ之レカ代金ヨル右ノ被上告第二號証ノ預リ金ハ上告人ヨリ被上告人へ渡スヘキノ理ナク然レハ則其被上告第二號預リ金証書ヲ取戻スヘキハ當然ナルモ未タ其小作米賣買ノ成否ノ局ヲ結了セスシテ右ノ小作米代ニ當ル預リ金証書ノ金員ヲ別途ナル地所代金ノ内ヨリ引去ラントスルハ頗ル不當ノコナレハナリ又上告人於テ預リ金貳百圓ヲ地代金ノ内ヨリ引去ルコトハ被上告人ノ承諾スル所ナリト申立被上告第三號証即豊岡區裁判所ノ勸解表ニ掲載シタル地所代金ノ計算ヲ以テ其証ト爲スト雖モ此計算ハ上告人カ勸解出願ノ時自己ニ記載シテ差出シタルモノニテ該時之ヲ示シテ其計算ノ相違ナキコト被上告人ニ承諾セシメタルモノトスルニ足ラス何トナレハ勸解ハ專ヲ原被兩造カ和熟解訟ニ至ルヲ旨トスルモノナレハ唯該表ノ結局ニ該件ハ本日取引スルノ約定ナルヲ以テ願下ト

記載シアルノミヲ以テハ其取引ノ計算ニ紛議アリテ局ヲ結フ能ハスシテ詞訟トナリタルニ際シテハ必シモ其計算迄ヲ自認シタルノ証ト爲スノカラアラサルモノナレハナリ又上告人ハ仮リニ小作米ヲ地代金千三百圓ノ外別途ニ賣買シタルモノトスルモ其小作米ハ被上告人カ上告第三號証ノ約定ニ違背シ自ラ之ヲ收入シタルニ依リ被上告第二號証ヲ被上告人ヨリ上告人へ返戻セサル限リハ該証預リ金貳百圓ノ抵償トシテ地代金千三百圓ノ内ヨリ貳百圓ヲ引去リ置クモ決シテ不當ノ事コアラスト主張スレハ前項辨明ノ如ク既ニ小作米賣買ノ別途ニ係ル以上ハ被上告人カ明治十一年分ノ小作米ヲ渡サレハ上告人モ亦其代價タル預リ金ヲ償却セサルノミ何ソ之レニ關係ナキ地所代金ノ内ニテ差引計算ヲ爲スヘキモノナラシヤ故ニ大坂上等裁判所カ小作米代金貳百圓ヲ千三百圓ノ内ヨリ

引落シ地所ノ引渡ヲ求ムルハ不當ニ付原告之ヲ承諾セサルハ當然
ノコトナリト判決シタルハ相當ノ裁判ナリトス

第三條

上告人於テ大坂上等裁判所ノ判文中ニ況シヤ被告第一號証タルヤ
若原告ヲ違約トスルモ其明文ニヨリ云々是非賣買ノ本旨ヲ履行セ
シムヘキ權利ヲ有セサルニ於テヤトアルハ本訴爭論ノ點ニ關係ナ
ク且爭訟者双方ノ相争ハサル第二ノ約定ニ付與ヘラレタル不法ノ
裁判ナリト云フト雖モ同裁判所ハ固ヨリ上告人ノ所謂第二ノ約定
即上告第一號証中ニ尤モ拙者ヨリ違約致候節ハ該入金ハ勿論違約
ノ廉ヲ以該入金ニ百圓相添御返濟可仕候云々トアルニ依據シテ必
ズ斯ノ如ク執行ス可シト裁判シタルニアラズ唯仮リニ被告上告人カ
上告第一號証ノ約定ニ違背シテ本訴ノ地所ヲ上告人ヘ引渡サ、ル

モノト見做シテ論スルモ猶此第二ノ約定ニ依リ上告人ハ違約金ヲ
受取ルニ止リ地所引渡ヲ求ムルノ權利ナケレハ結局上告人カ地所
引渡ノ要求ハ相貫キ難キ理ナルヲ説明シタルノミナレハ之ヲ以
テ本按ヲ不法ノ裁判ト謂フヲ得サルモノトス

第四條

上告人於テ本訴地所賣買ノ違約ハ被告上告人ニ在リテ決シテ上告人
ヨリ違約シタルニ非ラサルヲ以テ上告人ハ被告上告人ニ係リ上告第
一號賣買契約ノ履行ヲ請求スル權利アル旨申立ツルト雖モ既ニ前
第一條第二條ニ辨明スル如ク小作米ヲ地代金千三百圓ノ内ニテ賣
買シタル証憑ノ見ルヘキナシ然レハ上告人ハ地所代金千三百圓ノ
内ヨリ小作米代金貳百圓ヲ引去リ殘金ヲ以テ地所引渡ヲ求メント
スルハ上告人ニ於テ本訴地所賣買ノ約定ニ違フタル請求ヲ爲シテ

地所代金ノ全額ヲ渡スヲ欲セス是則チ上告者カ違約ナルニ依リ大坂上等裁判所カ被告於テ原告ニ係リ地所引渡ヲ求ムヘキ權利ナシト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

判決

前條々ノ理由ナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘカラサルモノナリトス

第二百三十五號

○田畑山林地券書換請求一件上告ノ判文明治十三年七月廿七日
四日 上告明治十三年九月十日
申渡

愛媛縣讚岐國阿野郡粉
所東村平民横谷岩藏代
言人

原告

東京府京橋區日吉町廿
一番地寄留兵庫縣平民
北村植造
愛媛縣讚岐國阿野郡粉
所東村平民

被告

龜山シク

大坂上等裁判所ノ裁判ハ不當ナリトノ上告ニ對シ辨明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

上告要領第一條ノ辨明

上告者ハ本訴ノ主點タルヤ被上告第一號証本訴論地ノ代金ヲ被上告者ヨリ上告者ヘ渡シタルヤ否ノ二點ニアリタルヲ以テ右二點ヲ

審究スルハ本訴判決ノ尤モ要用ナルモノナルニ原裁判所ノ右二點
 審究セラレサリシハ審理ヲ尽サ、ル不當ノ裁判ナリト申立タリ
 此上告ハ畢竟被上告カ地代金拂濟ノ証書即チ被上告三號ニ自分干預セス
 ト云フニ縁シタル皮相ノ辨論也如何ントナレハ原上等裁判所ノ辨
 明ハ其初頭ニ該訴争フ所ノ主點ハ原告オイテ金員ヲ出シ地券証狀
 ヲ得タルヤ亦或ハ被告ヨリ一時金策ノ爲メ借受タルヤノ二ツニア
 リト此兩點ヲ眼目トシタルカ故ニ該地券狀ノ當初被上告ノ手ニ入
 リタルハ全ク金策ノ爲メナリヤ否ノ事跡ヲ丁寧審究シ之レヲ判文
 ニ列記シタルニ非スヤ抑上告者カ自分一手ニテ地代金ヲ仕拂タリ
 トスルハ其第一號証書ニ依據シタルモノナル處該証書調印ノ日ニ
 金子取渡シヲ爲シタルニ非サルハ曾テ上告者カ代人タル森新五郎
 カ始審廳ヘ呈シタル辨駁書明治十二年七月八日付中ニ前日契約ハ四月三十日

ニ爲シ置タレトモ云々中被告倅藤平井伊八小四郎立合ノ上翌二十
 五日該地代金ト証券券狀及ヒ書換願トモ交換仕渡候トアリ同席立
 合人タル小四郎カ十三年四月三十日ノ口供ニ若シ期日ニ違ヒテハ
 不相成ト存スルヨリ二十四日トシ奧印ヲ受ケタル迄ニ付受渡シハ
 四月三十日ニ相違無之トアリ左スレハ金子取引ハ上告一號証即チ
 明治十一年四月二十四日ニ非サルトハ既ニ明カ也然シテ被上告一
 號証ノ條文ニ賣渡証書ニ關スル証類ハ悉皆夫迄ニ相認メ四月三十
 日ニハ相渡可申事ト明記シタリ此賣渡証書ニ關スル証類悉皆トア
 ル文字ハ儘ニ地券及ヒ書換願書等ヲ指シタルモノ也目今上告者カ
 言ノ如ク其一號証書ニ記載アル日付明治十一年四月二十四日ノ日コオイテ事
 實關伊八ヨリ全地受取ケルモノナラハ被上告一號ノ約束ニ循ヒ其
 期日明治十一年四月三十日迄ニハ賣渡ニ關スル証類ハ約ノ如ク悉皆整頓シ置

シ可キ筈也然ルニ上告者ハ被上告ニ對シ何等ノ用意ヲ爲シタリヤ
 果シテ其用意ノ整ヒアツハ之レヲ示シテ地代前金ヲ可引取ハ契約
 上當然也トス上告者ハ此用意ナキ者也故ニ關伊八ノ名義アル地券
 及ヒ書換願ヲ被上告へ引渡シ被上告カ所持セル一號証ノ責ヲ塞キ
 タルモノ也左ナクソハ一片ノ証據ナクシテ他人ノ名義ナル地券及
 ヒ書換願書ヲ被上告ノ手ニ入ル可キ緣由ナケレハ也爰テ以テ上告
 一號証書ノ金子取渡シハ被上告及ヒ引合人等陳述ノ通明治十一年
 四月三十日ナルヲ推シテ知ル可キ也原上等裁判所ハ右等ノ事跡ヲ
 推明シ被上告カ領置セル地券狀ハ金策ノ爲メ借用シタルモノニ非
 ラストシ結局原告オイテ出金シテ地券狀ヲ得タル也ト看做スニ足
 ルト認定シタルハ的當ノ裁判也

同第三條ノ辨明

上告者ハ原判文中「又被告オイテ印税金壹圓八錢七厘ヲ原告倅長市
 へ渡シタリト云フモ其証ナク」トアルヲ指摘シ是レ採証法ヲ誤リ証
 據トナラサルモノヲ証據トセラレタリト陳述シタリ「依テ被上告第
 四號ノ受取書ヲ閱スルニ横谷岩藏納トアリ此受取書ヲ被上告者カ
 所持シタルハ果シテ被上告カ出金シタル故ナルヤ否ヲ判文ニ明示
 セザリシハ聊疎漏ニ涉ルト雖モ原裁判所ノ判決ハ地券ノ所在ヲ眼
 目トシ數個ノ事跡ニ據リタルモノニ付該印税金授受ノ一事ヲ以テ
 本件ノ破毀ヲ求ムルヲ得ス

同第三條ノ辨明

上告ノ旨意ハ被上告者ニ地券書換願ヲ交付シタルハ地券貸渡シノ
 時ニアラス故ニ其旨ヲ原上等裁判所へ申立置タルニ判文ニハ「一時
 貸渡ノ地券ナレハ關伊八カ連署セル書換願書迄ヲモ貸與スルハ云

々ト事實ニ違フタル裁判ヲ與ヘラレタリトノ陳辨ナレトモ書換願
書ヲ被上告ヘ渡シタルハ地券ト同時ニ非ストスル証跡絶テナシ却
テ森新五郎カ辨駁書中ニ翌二十五日地代金ト証券券狀及書換願共
交換仕渡トアリ又森小四郎カ手續書〔明治十三年四月二十六日付〕ニ「横谷藤平義ハ
龜山シケ」ヘ地券拾八通及ヒ地券書換願拾八通共相渡トアリ關伊八
カ手續書モ率テ之レニ同シ依テ右書換願書ハ地券ニ添ヘテ交附シ
タルニ無相違モノトス

但シ上告要領第四條ハ要點ニ非サルヲ以テ辨明セス同五條六條
ハ被上告第三號証ヲ論難シタルモノナレトモ該証ハ上告者ニ對
シ効力ノ完タカラサルハ既ニ原判文ニ明示アリ其他云々ノ辨述
ハ枝葉ニ涉リ辨明第一條ノ範圍ヲ出テサルモノニ付辨明ヲ下ス
ノ限ニ非ストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ
キ者トス

第二百三十六號

〇判文明治十三年三月十九日上告
明治十三年九月十七日申渡

岐阜縣美濃國加茂郡

上告

鹿鹽村

右村總代同村平民

高橋久吉

右村總代同村平民若井

元次郎代官人東京府京

橋區銀座二丁目十四番

地平民

岡本忠三

右同縣同國同郡

被上告 西 初 井 村

同 中 川 邊 村

同 石 神 村

同 下 川 邊 村

右村總代右西初井村平

民

大谷長五郎

東京府深川區安宅町五

番地寄留新潟縣平民

右代言人

大矢早利

境界難澁一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當トシテ再上告スルノ要旨
ハ左ノ三項ナリトス

第一項 大阪上等裁判所ニ於テ當時ノ論所中上告外ニ掛ル地ハ被
上告ノ默許シ來リシ事蹟ニ依リ上告人請求ノ如ク判決シ特リ上告
ノ个所ノミニ限リ漫ニ字違ヒト云無証ノ片言ノミニ依リ上告人ノ
請求ヲ擯斥セラレタルハ判決ノ旨趣ニ様ニ出テタル不當ノ裁判ニ
テ今其証左ヲ擧シレハ左ノ如シ

一被上告第三號圖第五項項字ハ原裁判文ノ山附上告論地番號
番依ル以下同三上告ノ及ヒ第三百九十五番八番山第三百九十七番九番山ノ
山合五ヶ所ハ被上告ニ於テ縣廳ヨリ下附セラレシ時認メ居リ尙
東京上等裁判所審理中被上告ヨリ第九號証トシテ提供シタル即チ

上告第七號見取場帳ニ明記アルモノナレハ果シテ該地カ論所ニ當ラサレハ別ニ當ルヘキ地ナシ

一同圖第六項字板橋平作洞ノ山〔上告ノ〕ハ被上告村カ曾テ連署シ

テ認メ居ル上告第六號証ニ明記アルノミナラス其接續地ノ異論ナキ所モ皆同字ナレハ決テ被上告ノ論セシ如ク該地ノミ榮治洞

ノ別字カ其間ニ挾マリ居ルヘキ筈ナシ

一同圖第七項ノ山〔上告ノ〕モ亦前項ノ第六號証ニ明記アル山ナル

ヲ被上告ハ該証ニアル山ハ同圖白色ノ處ナリト云モ其指ス所ハ字松洞ニテ山ノアルヘキ地形ナラサルノミナラス現ニ畑地ナレ

ハ此ヲ山受地ト云フベカラス

一同圖第十一項ノ山〔上告ノ〕ハ同圖ニ字吹洞トアルモ是レ大字ナ

ノ唱ニシテ其小字ナハ第六號ニ明記アル如ク字ツ、ラ洞向平字

屋敷山トアル二筆〔切繪圖ニハ〕ニシテ其實ハ一ナリ而シテ又該地

ヲ數ケ洞トモ唱シテアルヲ以テ初審ノ時ハ此ヲ數ケ洞ト云シモ

終審ニハ六號証ニ依ツテ小字ナヲ申立シ迄ニテ決テ初終審地ヲ

異ニセシモノニアラス

一同圖第十二項ノ山〔上告ノ〕ハ上告第九號名寄帳ニアル畑地ヲ立

林ニナシタルモノニテ現在立林ニテ野地ナラサルコトハ被上告モ

認知シ居ルナリ

一同圖第十七項ノ山〔上告ノ〕モ亦第六號山帳ニ明記アルモノニテ

爭論ノ地ナリシニ該地ニ付テハ何等ノ裁判アラサリシ

右ノ如ク山拾ケ所ハ証左明ナルコトヲ入會ノ野地トセラレシハ不

當ナリトノコト

第二項 荒地八ヶ所ハ實地入會地ト區別判然ニ居且被上告モ素ニ

リ原野ノ儘ナリト云ハスシテ侵墾地ナリト明言セシ上ハ元ト畑地ナリシヲ認知シ居ルノミナラス一村中公証ト信シ居ル名寄帳ニ登記シアリテ年々貢租ヲ納メ來リ前項山地ト共ニ既ニ地券モ領受シ居ルモノナルニ此ヲ入會野ト判決セラレシハ不當トノ一第三項 大阪上等裁判所ニ於テ私有共有ノ爭ヲナシタル地所ハ無慮五百八十餘ヶ所ニテ内五百六十餘ヶ所即チ十分ノ九ハ上告人請求ノ如ク私有地トナリ僅々十分ノ一ノ^{〔即チ上告ノ論所〕}共有地トナリ上告人ノ請求立タサルモノナレハ其訴訟入費ハ十分ノ九迄敗訴トナリタル被上告ニ於テ負擔スヘキハ當然ナルニ之ヲ原被各自ノ費用ト裁判セラレシハ不當ナリトノ一

被上告人ハ上告要旨ノ不當ヲ辨シ併テ原裁判所裁判ノ不法ヲ論シ破毀ヲ要求セリ

依テ辨明并判決ヲ與ル左ノ如シ

辨明

第一條

上告人カ論スル所ノ上告要旨第一項ノ山拾ヶ所ノ内所謂上告ノ七番山ヲ除クノ外ハ上告人ノ論スル如ク被上告人モ曾テ認可シ居ル所ノ諸帳簿ニ登記シアルモノナレハ其登記ノ分ハ被上告人ニ於テ上告人論スル地位ニ相當セサルモノトセハ更ニ其証ヲ舉ケテ之ヲ辨スヘキニ原裁判所ノ審理中被上告人ニ於テ此等ノ証左ヲ舉ケタル跡ナク而シテ右ノ論所及ヒ七番山ノ論所モ實際立林ハ全ク近年ノ立木ナルヤ又ハ初審廳カ實地檢査ノ上判決セシ判文中銘々持林ハ自然繁茂シ入會トハ全ク區域相立居ルトアル部分ノモノナルヤ否ヲ審究シ果シテ右拾ヶ所ハ樹木繁茂シ入會地ト區域相立居ルニ

於テハ原裁判所カ既ニ上告外ノ論山ニ付生添タルヲ確認スルヲ得
 ス云々ト事蹟ニ依テ裁判セシ旨趣ト相觸レサル所ノ裁判ヲ爲サ、
 ルヘカラス又被上告人ニ於テ既ニ認メシ帳簿上ノ筆ハ實地地位ノ
 異ナル旨申立其地位ノ適不適ノ緊要ナル時ハ宜ク上告人カ指ス所
 ト被上告人ノ指ス處トニ就テ其接續地ノ異論ナキ字ト諸帳簿ノ字
 順等ニ依テ子細ニ調査テ遂ケ原被申立ノ内尤適當スヘキ証跡アル
 モノニヨリ其當否ヲ斷定スヘキニ原裁判所ハ此調査モ遂ケス邈然
 地位ノ適當スルヤ否定メ難キト云ノミヲ以テ之ヲ入會地ト認定シ
 タルハ審理ヲ盡サ、ル裁判ナリトス加之被上告第三號圖第一項ノ
 地所ハ上告人ノ爭ハサル所又第十七項ノ地所ハ如何ナル理由ニ原
 因スルヤ否ノ説明ヲ爲サス概シテ山林拾壹ヶ所ハ入會ニ屬スヘシ
 ト裁判シタルハ不當ノ裁判ナリトス

第二條

上告人カ所謂荒地八ヶ所ニ就テ其証左ヲ原裁判所ニ舉ケタルハ一
 村限リニ成立タル第九號名寄帳ト皆濟目錄ニ記載スル山税及ヒ地
 券証トニ過キス然ルニ名寄帳ナルモノハ嚮ノ上告辨明中ニ説明セ
 シ如ク他村ヘ對スル確証ニハ不相立納税モ果シテ論地ニ適當スル
 ヤ否ヲ識別シカタシ而シテ其地券証ニ於ル被上告ハ之ヲ異議シ初
 審以來既ニ入會地ノ地券ヲ領受シ居ル部分ナレハ即チ一地二地券
 ナリトノ旨趣ヲ主張シテ上告村ノ領受シタル地券ヲ正當ノモノト
 認メタルモノニアラサレハ該地ノ事蹟又ハ其他ノ顯証ニヨリテ愈
 畑地ト決シタル上ニアラズンハ該納税ト地券トヲ以テ直ニ右荒地
 ニ對シ正確適實ナルモノナリト定メ難ク而シテ其畑地ナリトノコ
 事蹟アラサルノミナラス上告人ニ於テハ

既ニ原裁判所へ呈セシ控訴狀ニ該地ヲ指シ野壹反貳畝貳歩ト揚言セリ既ニ野地ト明言シテ其以前畑地タルトノ証左ヲ舉ケサレハ被上告カ管ニ他ノ地所ヲモ籠メ侵墾地ナリト概言セシトノモ依リ直ニ畑地タルヲ被上告カ認知シ居リタルモノト云ヘカラス況ンヤ被上告ハ原裁判所審理中即チ明治十二年四月廿日一筆毎ニ侵墾地ヲ記シテ差出置タル書面ニハ所謂荒地八ヶ所ヲ除キ置同月廿四日ノ口供ニハ鼠色五拾八ヶ所ノ内八ヶ所ハ現在野山ナルニ原告^{上告者}云^テ於テ論地ノ如ク申立タリトアルヲ觀レハ素ヨリ畑地ナリト認知シタルモノニアラサルト明ナリ然ラハ則チ納税モ該地ニ適スルノ証ナク地券モ亦正確誤ナキモノト認メ難キヲ以テ原裁判所ニ於テ之ヲ入會地ニ屬スヘキモノト認定セシハ相當ノ判決ナリトス

第三條

訴訟入費ヲ敗訟者ニ於テ負擔スルハ當然ノコトナレトモ被上告人カ本訴ニ於ル全ク敗訟者ト見做スヘカラス如何トナレハ現ニ上告スル山拾ヶ所荒地八ヶ所ノ如キ原裁判所ニ於テ上告人カ所有地ナリト申立ハ相立ヌシテ被上告人カ素論ノ如ク入會地ト判定セリ然ルニ上告人ハ論地五百八十餘ヶ所ノ内ニテ五百六十餘ヶ所即チ十分ノ九ハ上告人請求ノ如ク私有地トナリ云々申立ルト雖訴訟入費ハ其勝敗ヲ區分シ分擔スヘシト云成規無之ノミナラス到底山拾ヶ所荒地八ヶ所ニ對シテハ上告人カ敗訟タルヲ免レサレハ原裁判所カ酌宜處分スルヲ相當トス仍チ判文但書ニ於テ訴訟入費ノ儀ハ原被告目費タルヘシト云渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

但被上告人ハ原裁判ノ破毀ヲ要ムト雖上告期限内ニ上告セサルヲ以テ本裁判ハ既ニ確定スルノミナラス今般ノ答辨ハ上告人カ

上告ノ主旨ニ對スルニ止ルモノナレハ其他ノ申立ハ總テ其効ナ
キモノトス

判決

右ノ如クナレハ大阪上等裁判所判決第二條ノ内上告人ノ論スル山壹
番ヨリ拾番迄ノ地ニ對シタル裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スヘ
キニ付其旨可相心得事

但シ上告ニ掛ル訴訟入費ハ被上告ヨリ償却スベキモノトス

第二百三十七號

○判文 明治十三年四月二日上告
明治十三年九月十八日申渡

岐阜縣美濃國安八郡盤
喰村總代同村平民松岡
克己外三名代言人

上告

東京府神田區小川町一

番地寄留岐阜縣平民

田島鹿之助

岐阜縣美濃國多藝郡

被上告

多藝島村

同縣同國同郡

同

上笠村

同縣同國同郡

同

大外羽村

同縣同國同郡

同

上屋村

同縣同國同郡

同

同縣同國不破郡

高

淵

村

同

同縣同國同郡

若

森

村

同

同縣同國安八郡

青

柳

村

同

同縣同國同郡

今

村

同

同縣同國同郡

友

江

村

同

同縣同國同郡

釜

笛

村

同

同縣同國同郡

島

里

村

同

同縣同國同郡

內

河

原

村

同

同縣同國同郡

川

口

村

同

同縣同國同郡

淺

草

東

村

同

同縣同國同郡

淺

草

中

村

同

同縣同國同郡

淺

草

西

村

同

同縣同國同郡

割

田

村

同

同縣同國同郡

外

野

村

同

同縣同國同郡

外

花

村

同

同縣同國同郡

外

淵

村

同

同縣同國同郡

南

類

村

同

同縣同國同郡

南

寺內

村

同

同縣同國同郡

禾

森

村

同

同縣同國同郡

築

捨

村

同

同縣同國同郡

犬

ヶ淵

村

同

同縣同國同郡

東

前

村

同

同縣同國同郡

高

橋

村

同

同縣同國同郡

江

崎

村

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡
長澤村	小泉村	直江村	平村	馬ノ瀬村	古宮村	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡

惡水江敷貸地代米結約要求一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當ト。上
 告シテ破毀ヲ求ムル要領ヲ審究スレハ左ノ一点ニ在リ
 東京上等裁判所カ被上告者控訴ノ丙第十一號証岐阜縣令ノ達書ヲ

同	同	同	同	同	同	同	同
同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡
今福村	難波野村	牧新田村	深池村	米野村	同縣同國同郡	同縣同國同郡	同縣同國同郡

探テ以テ上告者被控訴ノ要求ヲ不當トセラレタルハ探証法ニ違フク
 ル不法ノ裁判ナリ何ントナレハ抑モ審理中ニ成立タル新製ノ証ニ
 シテ且ツ本案貸地代米ノ事實ト既往ノ經歷トニ背馳スルノ証據ヲ
 提出スル時ハ先ツ其証據カ本案ノ經歷ト事實ニ適スルモノナルヤ
 否ヤヲ審究シ以テ其証據ヲ取捨スルヲ探証法ノ通則トスルニ該丙
 第十一號証タルヤ既ニ本訴初審ノ裁判ヲ經テ后チ上等裁判所ニ控
 訴シ其審問將ニ終ヘントスルノ際地方官カ初メテ之レヲ違シタル
 モノニシテ所謂本訴ニ付テハ新製ノ証ナルノミナラス其丙第十一
 號証ノ全面ノ主意ハ本案貸地代米ノ事實ト既往ノ經歷トニ全ク背
 馳スルモノナレハ之レヲ以テ本訴ノ証據ニハ採ル可カラサルモノ
 ナレハナリ然ルヲ原裁判所ハ該丙第十一號証岐阜縣令ノ達書カ本
 案貸地代米ノ事實ト既往ノ經歷トニ適スルヤ否ヤヲ審究セス亦其

辨明モ爲サズ單ニ丙第十一號証ヲ探テ上告者ノ要求ヲ不當ナリト
 判決セラレタルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトノ

右ノ要點ニ對シ辨明ヲ與エ判決スル左ノ如シ

上告者ハ被上告丙第十一號証トスル岐阜縣令ノ達書ハ本訴ノ証據
 ニ採ル可カラサルモノナルチ東京上等裁判所ハ之ヲ探テ以テ判決
 シタルハ審理不盡ニシテ不法ナリト云フト雖モ該達書ヲ閱スルニ
 (安八郡鹽喰村並多藝郡横曾根村へ可差出惡水江敷代米及普請代米
 等別紙ノ員數ハ舊大垣藩ヨリ下渡來候成績ニヨリ右員數ノ内明治
 五年處分未濟ノ分ハ官ニ於テ處分可致云々)トアリ是ニ依テ之ヲ見
 ルニ本訴惡水江敷代米ハ上告者甲第一號以下ノ數証ニ於テ表面ハ
 從來被上告村ヨリ受取り來リタルモノナルモ岐阜縣令ニ於テ其實
 當時ノ官廳ナル舊大垣藩ヨリ被上告村へ該米額ヲ下ケ渡シ來リタ

ル成績ニ依據シ官ニ於テ處分ス可クト達シタルモノナレハ被上告
 村ハ從來舊領主〔舊大垣藩〕ノ代約者ナリシ實際ヲ知ル可キノ理ニテ右ノ
 成績ニ據リ岐阜縣廳カ負擔スルノ理アリテ負擔シタルモノト認ム
 ル上ハ其負擔シタル明証ナル該被上告丙第十一號証達書ハ上告者
 甲第一號以下ノ數証ノ表面ニ背馳スルモノ之レヲ本訴ニ採ル可カラ
 サルモノト爲シ難キ理由ナリトス右ノ如ク達書ノ明文ニ由テ知リ
 得可キ事理ナレハ東京上等裁判所ハ特ニ該達書即チ被上告丙第十
 一號証ニ付テ該証カ本訴惡水江敷貸地代米ノ事實及ヒ既往ノ經歷
 ニ適スルヤ否ヤヲ審問辨明セサルモ審理ヲ尽サ、ル不法ノ裁判ト
 云フヲ得サルモノトス

但本文要点ノ外上告狀ニ記載スル處ノ被上告丙第十一號証達書
 中ニ明治五年處分米濟ノ分トアルハ本訴ノ惡水江敷代米ヲモ指

スモノナルヤ否ヤノ點ニ付テハ上告者自ラ得テ以テ本訴ニ甲第
 十九號証トシテ提出シタル岐阜縣令ノ指令書ニ依テ其本訴ノ江
 敷代米ヲモ指示シタルモノナルコトハ判然タルコト付別ニ辨明チ與
 ヘサルナリ

判決

右辨明ノ理由ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀ス可キノアラ
 サルモノトス

第二百三十八號

○損料品取戻并料錢滯一件東京上等裁判所ノ裁判不法上告ノ判
 文
 明治十三年七月十九日上告
 明治十三年九月十八日申渡

東京府麻布區網代町二
 番地石川友吉方寄留大

分縣平民齋子田又三郎
 代理人東京府神田區神
 田錦町一丁目六番地寄
 留埴玉縣士族

上告人 高橋 一 勝

東京府芝區神明町二十

五番地平民

被上告人 水野 吉之丞

東京上等裁判所ノ判文

原告ハ明治十二年三月二十七日國阪仲次郎ノ紹介ヲ以テ原告第二
 號証ノ通り林重三郎ヨリ本訴ノ物品ヲ買受ケタルヲ更ニ原告第一
 號証ノ如ク右重三郎并本訴被告へ貸渡シタルニ期限過去ルモ返戻

無之ニヨリ屢々兩人へ取戻方請求中重三郎ハ失踪セシニ付被告ニ
 對シ本訴ニ及ヒタル處初審廳ニ於テ原告提供スル証書ハ明治十年
 第五十號公布ニ背乖スルニ依リ原告ノ請求不相立旨判決アリシハ
 不服ニ付及控訴タル次第ニテ原告第一號証ハ重三郎ノ筆記ニ係リ
 被告ノ姓名モ重三郎カ代書セシモノナレトモ印影ハ被告ノ實印ニ相
 違ナキ旨申立被告ハ原告ヨリ本訴ノ物品借受ケタルヲ無之ニ付素
 ヨリ原告第一二號証へ記名調印シタルヲ無之尤モ被告名前下ノ印
 影ハ被告カ實印ニ代用スル見認印ニ類似ノモノナレトモ被告ノ印形
 ニハ無之假リニ被告ノ印形ナリトスルモ被告ニ於テ原告カ該品買
 取ノ紹介人ナリト云ヘル國阪仲次郎ト陸軍本病院へ同勤中間々印
 形殘置キタルヲ有之ニ付或ハ其際ニ押用セラレタルヤモ難計又假
 リニ被告ノ印形ナリトスルモ原告提供スル証書ハ明治十年第五十

號公布ニ背乖スルモノニ付旁以テ原告ノ請求ニ難應旨答辨セリ依
テ原告第一二號証被告名下ノ印影ト明治十三年三月十五日附被告
代言届書并明治十三年五月四日附被告止宿換届書ノ被告印影トテ
照見ルニ全ク同一ノモノト看認メタレハ其押印カ詐偽ノ所爲ニ出
タル証據ヲ舉ケサル上ハ被告カ押捺シタルモノト謂ハサルヲ得ス
而シテ原告提供スル証書ハ明治十年第五十號公布ニ背乖スルモ之
カ爲メ証書ノ無効ニ屬スヘキモノニ非ス旁以テ原告ノ請求ヲ拒絕
スルハ不條理ナリトス

右ノ理由ナルコ付原告請求ノ通リ本訴物品返戻ハ勿論損料錢滞リ
高ニ訴訟入費ヲ併セ速ニ被告ヨリ原告へ償却スヘシ
明治十三年
五月廿八日
大審院ニ於テ

上告代言人高橋一勝上告ノ要領

第一號

本訴争フ所ノ第一號第二號証書ハ明治十年第五十號ヲ以テ自署代
書ノ法ヲ定メラレタル公布ニ背乖スルモノニテ謂レナク成立可キ
モノニ非サレハ假リニ該証ニ上告本人ノ實印押捺シアリトスルモ
コレノミチ以テ其真正ナルヲ徵スルニ足ラサレハ此場合ニ於テハ
被上告者〔即チ該証ニ據テ權〕ニ向ヒ其果シテ真正ナルノ立証ヲ責メ
サルヘカラス然ルニ東京上等裁判所ノ判文ニ〔其押印カ詐偽ノ所爲
ニ出タル証據ヲ舉ケサル上ハ云々〕トアリテ上告者ニ對シ非真正ナ
ルノ立証ヲ責メラレタルハ是レ聽斷ノ定規ニ違ヒ立證ノ順序ヲ失
シタル不法ノ裁判ナリトナリ

第二條

右第一二號証書ノ文面ハ勿論上告者ノ姓名モ本人カ自記シタルモ

ノコ非サルコハ被上告者モ既ニ自認スル所ナルヲ以テ該姓名下ノ
 印影ハ果シテ上告者ノ印影ニ相違ナキヤ否ヤノ點ハ實ニ原裁判所
 ニ於テ爭論ノ一要點ト爲リタレハ當時ノ原告被上告者ハ其果シテ被告
 者ノ印影ニ相違ナキヲ立証ス可キノ責任ヲ負ヒナカラ之ヲ果サ
 者上告ノ印影ニ相違ナキヲ立証ス可キノ責任ヲ負ヒナカラ之ヲ果サ
 ヲリシニ原裁判所ハ其判文ニ(原告ハ云々原告第一號証ハ重三郎ノ
 筆記ニ係リ被告ノ姓名モ重三郎カ代書セシモノナレハ印影ハ被告
 ノ實印ニ相違ナキ旨申立被告ハ原告ヨリ本訴ノ物品借受ケタルコ
 無之云々被告名前下ノ印影ハ被告カ實印ニ代用スル見認印ニ類似
 ノモノナレハ被告ノ印影ニハ無之云々依テ原告第一二號証被告名
 下ノ印影ト明治十三年二月十五日附被告代言屆書并明治十三年五
 月四日附被告止宿換屆書ノ被告印影トヲ照見ルニ全ク同一ノモノ
 ト看認メタレハ其押印カ詐偽ノ所爲ニ出タル証據ヲ擧ケサル上ハ

云々ト判決セラレタリ然レハ該判文ノ主眼即チ被告印影トヲ照見
 ルニ全ク同一ノモノト看認メタレハ云々トノ判決ハ何ニ依テ下サ
 レタルヤ証據證據ニ就キ一ノ事實ヲ推測認定スルハ格別本件ノ如
 キ所事ノ要點タル彼此ノ印影カ同一ナルヤ否ヤヲ定ムルカ如キハ
 本職ノ鑑定人ニ非サルヨリハ之ヲ定ムルヲ能ハス然ルニ本業ノ鑑
 定人ニモ附セラレヌ原裁判所ハ自ラ鑑定本職ノ任ニ當リ証書ノ印
 影ハ他ノ屆書ノ印影ト同一ナリト鑑定(判文ニハ鑑定ト言ハスシテ
 看認ト記シアルモ判文ノ意
 チ通覽分析スルニ甲印ト乙印トヲ比照鑑定スルト)シ以テ裁判ヲ下
 ノ意ニ出サレハ便チ知ル看認トハ鑑定ナルヲシ以テ裁判ヲ下
 サレタルハ不當ノ裁判ナリトノコ

辨明

上告要領第壹條ニ(本訴所争ノ第壹號第二號証書ハ明治十年第五十
 號公布ニ背戻スルモノニシテ云々假リニ上告本人ノ實印押捺シテ

リトスルモ其真正ナルヲ徴スルニ足ラサレハ云々又其第二條ニ右
 第壹貳號証書ノ文面ハ勿論上告者ノ姓名モ本人カ自記シタルモノ
 ニ非サルコトハ被上告者モ既ニ自認スル處ナルヲ以テ該姓名下ノ印
 影ハ果シテ上告者ノ印影ニ相違ナキヤ否ヤノ點ハ實ニ原裁判所ニ
 於テ爭論ノ一要点ト爲リタレハ當時ノ原告〔被上告者〕ハ其果シテ被告〔上
 告者〕ノ印影ニ相違ナキヲ立証ス可キノ責任ヲ負ヒナカラ之ヲ果サ、
 リシ云々本件ノ如キ所爭ノ要点タル彼此ノ印影カ同一ナルヤ否ヤ
 ヲ定ムルカ如キハ鑑定人ニ非ルヨリハ之ヲ定ムルヲ能ハス云々原
 裁判所ニ自ラ鑑定ノ任ニ當リ証書ノ印影ハ他ノ届書ノ印影ト同一
 ナリト裁判セラレタルハ不當ナリト申立ルト雖モ之ヲ原裁判所ノ
 簿冊ニ照シ討究スルニ明治十三年五月四日原裁判所へ原被兩造カ
 提出シタル引合入國坂仲次郎カ初審廳ニ出シタル始末書ヲ諦視ス

ル所右文中仲次郎カ陳述ニハ〔齋子田又三郎〕即上告人以下之ニ倣フヨリ金圓借
 用致度旨相頼云々水野吉之丞以下之ニ倣フ方ニテ損料借仕候間其段
 申聞候處我等所持品ヲ賣渡候間右品物損料ニテ貸與候様達ヲ相頼
 候ニ付云々則蒲團並時計衣服二品合拾三品代價金拾五圓ニテ吉之
 丞方へ賣渡シ然ルニ兩人一人以上及ヒ連帶ノヨリ頼ニ任セ右品物
 損料ニテ三十日之間貸與候様申ニ付水野吉之丞方へ相頼候處承諾
 之上明治十二年三月中齋子田又三郎宅ニテ私引合人吉之丞代理ト
 シ云々改損料明細帳ニ記載致証書認之儀ハ私代書致兩人名前之儀
 ハ名々書與候様申聞候處林重三郎〔上告者〕壹人ニテ認メ其段又三郎
 儀モ兼テ承知仕三名立會ノ上取引仕其後本年四月廿五日三十日分
 ノ損料錢金貳圓廿五錢齋子田又三郎ヨリ請取其節又三郎ヨリ私へ
 頼ムニハ三十日間物品催促ハ致吳間敷トノ旨達テ相頼云々然ルニ

期限中ニ又三郎並ニ重三郎ト申合ニテ品物賣拂重三郎ハ行衛相知
 不申云々トアリ夫レ斯ノ如ク引合人國坂仲次郎ハ上告人ヨリ依頼
 セラレタル當時ノ手續即金圓借用ヨリ次テ上告人カ物品賣却更ニ
 損料ニテ借入レタル情况及ヒ証書ノ成立又ハ料錢拂入レ延期ヲ請
 ヒ期限中上告者ハ連帶ノ一人林重三郎ト擅ニ損料品ヲ賣却シタル
 等着々實際授受ノ申述ニ對スル上告者カ駁論ハ唯第壹貳號証ヲ差
 入レタルヲ無之云々被告〔上告人以下之ニ倣〕名下ノ印影ハ被告カ實印ニ代用
 ナ爲ス見認印ニ似寄ノモノナレハ被告ノ印形ニハ無之又被告印影
 ニ相違ナキモノト假定スルモ國坂仲次郎ナル者ハ則原告〔被上告人〕カ該
 品ヲ買取タル節ノ紹介人ナリト云ヘルモノハ被告ト同勤ノ者ニテ
 云々被告カマ、該印ヲ院中〔陸軍本病院〕ニ殘シ置タルヲ有之ニ付或ハ是
 等ノ場合ニ於テ押用致サレタルヤモ計リ難ク且其印影カ相違ナキ

モノトスルモ明治十年第五十號公布ニ背ケルモノニ付云々ト一モ
 信憑スルニ由ナキ曖昧模糊ノ答辨ノミニテ始末書中最モ切言シタ
 ル延期中上告人ト林重三郎カ申合擅ニ損料品ヲ賣却シタル等ノ事
 ハ一モ駁論ヲ爲サス管ニ駁論ヲ爲サ、ルノミナラス若シ上告者ノ
 言フ如ク所爭ノ証書捺印及ヒ物品借用等ヲ爲サ、リントナラハ引
 合人國坂仲次郎カ陳述ハ上告者ニ對シ頗ル誣罔ノ言ヲ以テ其身ニ
 汚辱ヲ被ラシタルモノニ非スヤ然ルニ上告者ハ依然之ヲ不問ニ措
 キ唯印影ハ似寄ノモノナレハ証書差入レタルヲナシト迄ニテ別段
 偽証ナリトノ証據ヲ擧ケテ抗拒シタルニモ非ス又印影ノ鑑定ヲ請
 願セシトモ無之シテ引合人仲次郎ノ始末書ヲ甘認シタルヲ以テ見
 レハ到底實際ハ該始末書ノ如シト認定セサルヲ得ス且明治十年第
 五十號公布ノ如キハ証書渡主ノ注意ヲ示シタルモノニテ其証書ノ

渡主カ式ニ違ヘル証書ヲ渡シタリ迎單ニ是等ヲ以テ上告者カ其責ヲ免カルヘキモノニ非レハ則チ原裁判所ハ該始末書ノ情況ト上告者カ原裁判所ニ提出シタル代言届及止宿換届書等ノ印影ニ徴シテ釋然認了スル所アリ以テ該第壹貳號証書ハ真正ノモノトシ被上告者カ請求ヲ上告者ニ於テ拒絕スルハ不條理ナリト裁判セシハ相當ニシテ不當ノ裁判ニ非ラストス

判決

前條ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ

第二百三十九號

○判文 明治十三年八月十日 上告
明治十三年九月廿日 申渡

埼玉縣武藏國北葛飾郡

中曾根村平民亡小左衛門跡相續人

原告

戸井田甚五郎

同縣同國同郡半田村平民

被告

中村小野八

實地取戻一件原告ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ上告スル要領左ノ如シ

終審判文ニ(明治五年地券發行ノ際被告ハ該地ノ地券ヲ受ケンコトヲ要セスシテ原告カ名受チナスヲ明許シタルハ當時兩造熟議ノ上該地ノ所有權ヲ更移セシモノト見認メ得ヘク依テ被告ノ請求難相立トアレド原告甲號証ノ特約ハ地券ノ掌握有無ニ關セス一種ノ契約

ニシテ假令數十年ノ後ニ至ルモ被告ニ對シ該地受戻ノ權利アルコトハ該証ニ(右地所年期明ケ候共相返シ可申)トアルニテ明瞭ナリ且又該地ノ所有權ヲ被告ニ移セシモノナレハ原告甲號証ハ其際被告ニ戻スヘキモノナルニ今尙原告ノ手ニ存在スル上ハ何ケ年相立ツモ地所受戻ノ權利消滅セサル確証ナルニ前文ノ如ク申渡サレタルハ不法ノ裁判ト思考ス

辨明

上告人ニ於テ上告甲號証ノ特約ハ地券受ケノ如何ニ關セス仮令數十年ノ後ニ至ルモ被告上告人ニ對シ被告乙號証ノ質地ヲ受戻スヘキ權利アル旨縷々申立ルト雖モ抑地券ナルモノハ其地所所有ノ確証ニシテ地主タル者ノ受ヘキ成規ナリトス故ニ上告人カ本訴ノ質地ヲ流地ト爲サ、ルニ於テハ必ス之カ地券願受ノ手順ヲ盡サ、ルヘ

カラサルニ上告人ニ於テハ一ツモ其手順ヲ爲シタルコトナキノミナラス却テ被告上告人カ之ヲ受クルヲ明許シ而シテ本訴ヲ起スニ至ル迄一ノ異議ヲモ唱ヘスシテ數年間空過スルヲ見レハ被告上告人カ地券ヲ受タルノ當時業ニ已ニ該地受戻ノ權利ヲ拋棄シタレハコソ斯ノ如ク己カ權利ヲ保ツノ行爲ヲ爲サ、リシ者ト推定セサルヲ得ス然則仮令甲號証ハ上告人ノ手ニ存在スル上告人カ被告上告人ノ地券受ヲ明許シタルニ由リ其効力消滅シタルモノナリトス因テ東京上等裁判所カ原被告兩造熟議ノ上該地ノ所有權ヲ更移セシモノト見認メ上告人ノ請求相立サル旨判定シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

前文ノ如クナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

○地税金増額ニ付貸地代金増加一件東京上等裁判所裁判不當上告ノ判文明治十三年八月廿七日上告

日本橋區本小田原町六

番地平民日暮清次郎代

言人同區若松町貳拾壹

番地寄留秋田縣平民

上告人 渡部小太郎

京橋區鈴木町八番地平民

被上告人 林嘉兵衛

東京上等裁判所ノ判文

原被兩造ノ陳述セシ趣旨ニ依リ之ヲ要スルコト原告ニ於テハ本訴貸地ハ同等ナル安針町三四五番地ノ地代ニ比較スルカ或ハ甲第壹號証ニ因リ魚市場全体ノ地代ヲ比較スルニ於テハ乙第二號証ノ達書ニ室町東側本船町河岸通并室町貳丁目境横丁入口ニ市立中登人立往來木戸取設候様可致事トアルニ依リ此木戸内壹人立往來ノ場所ハ魚市場ノ全体ナレハ該地一体ノ地代價ヲ平均シ之ニ比較シテ地代金ヲ取極メヘキモノナルヲ以テ被告ノ請求ニハ應シ難キ旨申立被告ニ於テハ甲第一號証ニ市場中全体ノ地位ト御比較ノ上至當ノ代價ニ御定被下度トアルニ依リ魚市場ノ全体ナル甲第貳号証ニ掲ケタル番地ノ地代金額ニ比較シ之ヲ平均シテ増加シタルモノナル旨答辨ス然リ而テ甲第壹號証ノ文旨ヲ熟閱スルニ魚市場全体中ニ於テ本訴貸地ト地位ノ優劣ヲ同スル地所ノ地代金高ト不平均ナラ